



MITOYO

高齢者医薬品適正使用推進事業に係るモデル  
医療機関調査一式 最終報告

実施責任者 篠永浩  
2022年4月13日

## 医療機関の概要（三豊総合病院）

- 香川県西部（観音寺市、三豊市）の中核拠点病院
- 病床数：一般 462 床（感染症病床4床を含む）
- 診療科：29科（内科・呼吸器科・消化器科・循環器科・神経内科・心療内科・精神科・小児科・外科・消化器外科・整形外科・形成外科・脳神経外科・心臓血管外科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・頭頸部外科・リハビリテーション科・放射線診断科・放射線治療科・麻酔科・リウマチ科・病理診断科・歯科・歯科口腔外科・矯正歯科）
- 一日平均入院患者数：381.0人、平均在院日数：14.3日
- 一日平均外来患者数：848.4人
- 地域医療支援病院、地域がん診療拠点病院、災害拠点病院など

うどん県 



## 医療機関の概要（三豊総合病院）

- 医療従事者数：906名（うち、医師・歯科医師：86名）
- 薬剤師数：26名（会計年度1名含む）、調剤助手：3名
- 病棟薬剤業務実施加算算定
- 薬剤管理指導業務：1401件/月
- 院外処方箋発行率：96.1%
- 各種チーム（ICT、NST、がん・緩和ケア、ポリファーマシーなど）に薬剤師が所属し活動中



# 業務実施方針 (病院のポリファーマシー対策活動の現状：事業前)

## 三豊総合病院高齢者薬物療法適正化チーム規定

### (目的)

第1条 この規程は、三豊総合病院において、ポリファーマシー\*に関連する薬物関連問題を適正化し、薬物療法が安全に施行できるようにすることを目的とする。

\*ポリファーマシーは、6剤以上など一律の薬剤数で対応する患者を規定するのではなく、厚生労働省「高齢者の医薬品適正使用の指針（総論編）」に準じ、「薬物有害事象、服薬アドヒアランス不良、不要な処方、あるいは必要な薬が処方されない、過量・重複投与など薬剤のあらゆる不適正問題を含む概念」とする。

### (ポリファーマシーチームの設置)

第2条 前条に定める目的を達成するため、組織横断的にポリファーマシー対策を行う組織として、院内にポリファーマシーチームを設置する。

- (1) チームの委員長は病院長から任命される。
- (2) チームメンバーは内科医師、病棟看護師、リスクマネージャー、薬剤師、理学療法士、言語聴覚士の中から委員長が指名した者で構成する。
- (3) ポリファーマシーチームカンファレンスは、原則として週1回の定例会とする。ただし、必要に応じ、臨時ポリファーマシーチームカンファレンスを開催することができる。
- (4) ポリファーマシーチームの所掌事務は以下のとおりとする。
  - 一 病院のポリファーマシーに関する情報収集。
  - 二 ポリファーマシー対策等の対策立案と実施の推進に関すること。
  - 三 ポリファーマシー対策のための患者及び職員への啓発と教育の推進に関すること。
  - 四 ポリファーマシー症例に対する対応の提言等に関すること。
  - 五 その他、チームリーダーが必要と認める事項に関すること。
  - 六 その他、チームが必要と認める事項に関すること。
- (5) ポリファーマシーチームカンファレンスの開催連絡、記録及びその他の庶務は薬剤部が行う。

### ポリファーマシーチーム構成員 (令和2年4月)

チームリーダー 藤川 (医師)  
サブリーダー 陶山 (薬剤師)  
チームメンバー 石津 (医師)、井上謙 (医師)、森健 (医師)、吉田泰 (医師)、原田 (医師)、重久 (医師)、三好由 (医師)、松村 (医師)、中本 (医師)、綾 (医師)、安田 (医師)、松田 (医師)、谷口 (医師)、植松 (看護師)、松永 (理学療法士)、合田 (言語聴覚士)、佐藤 (薬剤師)、今滝 (薬剤師)、香川 (薬剤師)  
事務局 篠永 (薬剤師)

## 2020年度よりチームを設置

- ・ **多職種** (医師、薬剤師、看護師、リスクマネージャー、理学療法士、言語聴覚士) で構成。
- ・ **週1回のチームカンファレンス及びラウンドを開催。**



# 業務実施方針

## (病院のポリファーマシー対策活動の現状：事業前)

- ・ 医師を含めた多職種によるチームで検討を行い、入院患者に対し適正なポリファーマシー対策を実施する。
- ・ 退院後も病薬連携による継続したフォローを行う。

ポリファーマシーカンファレンス風景



- ・ **病院組織図**の中にポリファーマシーチームを明記
- ・ **週1回**チームカンファレンス及びラウンドを実施
- ・ **処方提案**は病棟担当薬剤師と協働し、**チームから主治医へ**
- ・ 退院時の薬剤管理サマリー、加算算定対応は**病棟担当薬剤師**

# 業務実施方針

## (病院のポリファーマシー対策活動の現状：事業前)

### 【スクリーニング条件の例】

#### (定量的条件)

- ・直近1週間以内に特定の病棟に入院した一定の年齢(例：75歳)以上
- ・自院他院問わず、入院前に内服を開始して一定の期間(例：4週間)以上経過した内服薬が一定の種類数(例：6種類)以上処方されている<sup>28</sup>  
※薬剤種類数は目的に応じて10種類以上などに限定してもよい。
- ・一定の日数(例：10日)以上入院する予定がある
- ・一定の診療科数(例：2科)以上の診療科、または一定の医療機関数(例：2医療機関)以上の医療機関を受診している
- ・PIMsを服用している

#### (定性的条件)

- ・患者や家族が処方見直しを希望している
- ・入院前の医療機関から処方見直しに関する依頼がある

厚生労働省：病院における高齢者のポリファーマシー対策の始め方と進め方

### 介入対象患者抽出基準

#### 【チームカンファレンス対象患者】

- ① **チーム所属医が主治医**
- ② **入院前及びカンファレンス当日の常用内服薬が6種類以上**
- ③ **退院日が未定**

#### 【個別カンファレンス対象患者】

- ① **特定の薬剤(Wfなど)に設定した検査値が基準値から逸脱**
- ② **同効薬重複**

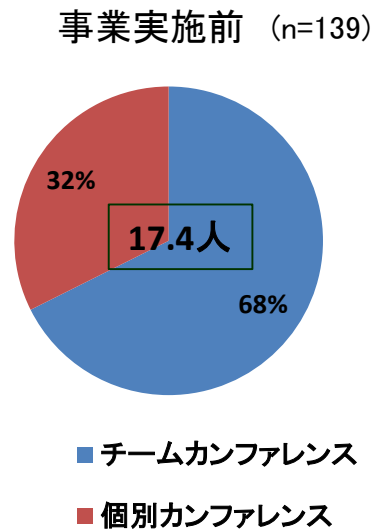
\* **PIMs**の有無などについては参考情報として活用

# 業務実施方針

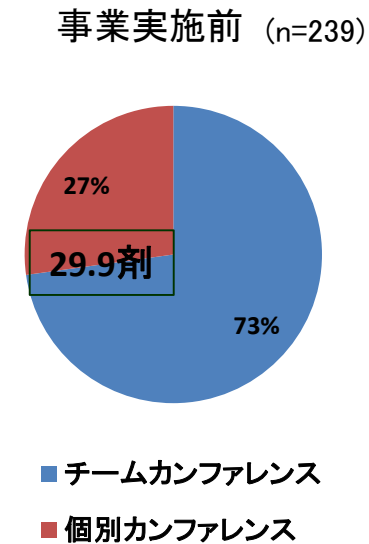
## (病院のポリファーマシー対策活動の現状：事業前)

調査期間：2020年10月から2021年5月  
調査対象：チーム介入を実施した入院患者  
調査項目：チーム介入状況、処方提案・処方変更状況

### 処方提案患者数(人/月)



### 処方提案薬剤数(剤/月)

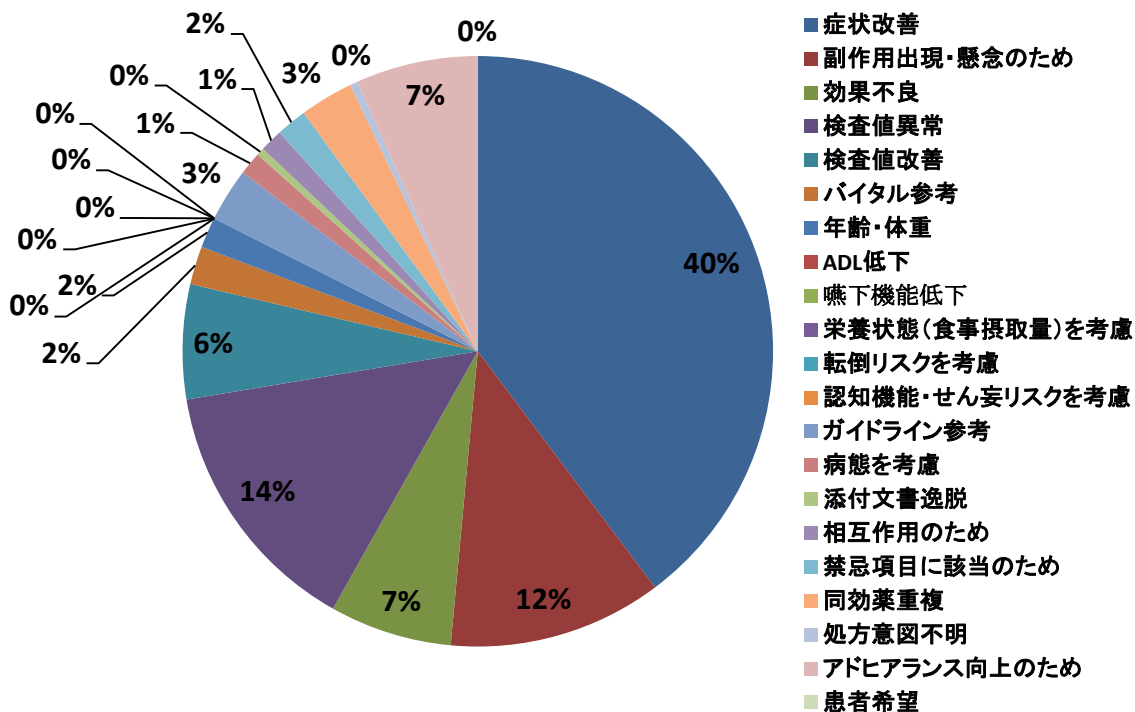


介入患者数は月平均17.4件、処方提案薬剤数は月平均29.9剤  
チームカンファレンスでの介入が多数

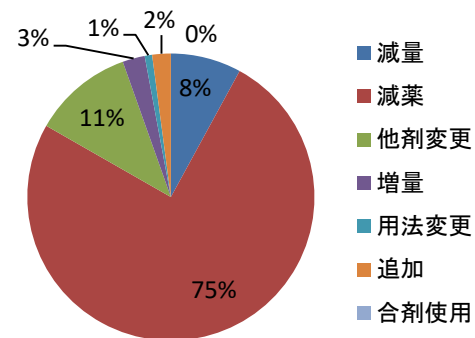
# 業務実施方針

## (病院のポリファーマシー対策活動の現状：事業前)

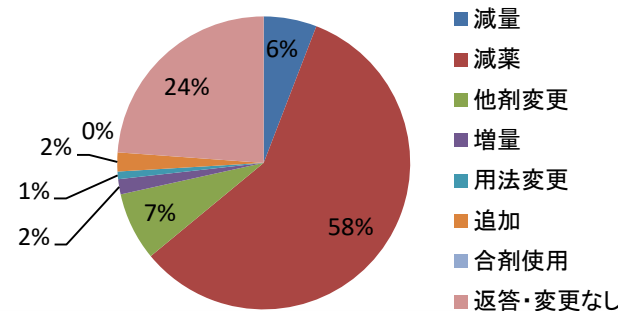
処方提案の契機 (n=239)



薬剤毎の処方提案内容 (n=239)



薬剤毎の処方提案(結果)内容 (n=239)



処方提案内容は**減薬**に関する事項が多数（**採択・変更率は76%**）  
提案の契機については**症状改善**が多く、次いで**検査値異常、副作用**

\* 中間報告時の集計方法では非該当の契機項目を一部削除していたが、最終報告での集計方法では全ての契機項目を表示。  
また、中間報告時の集計方法では調査期間中に入院、介入が6月の事例を含んでいたが、最終報告での集計方法は調査期間中に介入を実施した患者のみのデータとしたため、中間報告時と数値が異なる。



# 業務実施方針 (病院のポリファーマシー対策活動の現状：事業前)

介入状況については薬剤管理サマリー、介入状況報告書にて情報連携

※各論編・事例8を参考に作成(84歳女性、急性期病院)

薬剤管理サマリー

患者ID	XX-XXXX-XX	性別	女	生年月日	S.XXX.XX.XX	入院日	XXXX/XX/XX	予定退院日	XXXX/XX/XX	入院期間	XX	診療科	内科・院内、整形外科
氏名	▲▲▲▲	年齢	1900/3/24	身長	XXX (cm)	体重	XX (kg)	入院時処方日数	14	定期内服数	7	退院時処方日数	7
管理状況	<input checked="" type="checkbox"/> 自己	<input type="checkbox"/> 看護師	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> PTP	<input checked="" type="checkbox"/> 一化	<input type="checkbox"/> 粉砕	<input type="checkbox"/> 原形懸濁	<input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 経口	<input type="checkbox"/> 経管	<input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> その他
入院後の追加薬剤	デュラグルチド皮下注												
入院中の経過及び伝達事項	入院時、腎機能がGFR 27mL/min/1.73m <sup>2</sup> と低下していること、高齢者に特に慎重な投与を要する薬物を多数服用していることから、処方全体の見直しを行いました。なお、患者は目が悪く、服用薬剤数と服用回数が多いことから減薬を希望されています。血糖コントロールは良好であり、退院後のA/Hバランスを考慮して、デュラグルチド皮下注によりコントロールする方針となっています。自己注射手技は問題なく習得できています。処方については一化化をお願いします。												

入院中の薬剤追加・中止情報を記載

ポリファーマシー対策を含めた退院後の主な注意点を記載

ポリファーマシーに関するチェックボックス

入院中の経過やポリファーマシー対策等の詳細を記載

返書(介入状況報告書)

診療科	■ ■ 科	保険薬局 名称・所在地	■ ■ 薬局 ○ ○ 店
医師名	○ ○ 先生御侍史	院内担当薬剤師	× × 市 ○ ○ 町 2-1-12
患者ID	XX-XXXX-X	電話番号	XXX-XXX-XXXX
患者名	△△ △△	FAX番号	XXX-XXX-XXXX
入院日	XX/XX	退院日	XX/XX
担当薬剤師	● ● 印	この情報を伝えることに対して患者様の同意を <input checked="" type="checkbox"/> 得た <input type="checkbox"/> 得ていない	
<input type="checkbox"/> 患者様は医師への報告を拒否していますが、治療上重要だと考えられるので報告します。			
退院時に情報提供が必要と判断した患者様です。細やかなフォローアップをお願い致します。			
【管理者、調剤形態、生活環境に変更がありましたら、お知らせください。】			
<input type="checkbox"/> 変更なし <input checked="" type="checkbox"/> 変更あり (腰痛のため、外出ができなくなった)			
◆ 退院時の定期内服数 7 剤 現在の定期内服数 2 剤 (頓服・貼付剤・服用日数4週未満は除く)			
【退院後から現在の服用状況について確認をお願い致します。(複数選択可)】			
<input type="checkbox"/> 薬の飲み忘れがあった <input checked="" type="checkbox"/> 薬の使用方法に関して気に留めていない			
<input type="checkbox"/> 具合の良いときに、薬を休んでしまった <input type="checkbox"/> 薬を飲んで具合が悪くなり、服用をやめてしまった			
<input type="checkbox"/> 問題なし			
【評価・対応】			
<input checked="" type="checkbox"/> 副作用モニタリング <input type="checkbox"/> 処方変更に伴う薬学的評価 <input type="checkbox"/> 薬剤投与方法 <input type="checkbox"/> プレイル・低栄養			
<input checked="" type="checkbox"/> 生活環境 <input checked="" type="checkbox"/> 飲み忘れ <input type="checkbox"/> 薬類 <input type="checkbox"/> 薬数ばらつき <input type="checkbox"/> 自己調整			
<input checked="" type="checkbox"/> 身体機能の低下 <input type="checkbox"/> 認知機能の低下 <input type="checkbox"/> 薬への不安 <input checked="" type="checkbox"/> 生活習慣 <input checked="" type="checkbox"/> ポリファーマシー			
上記項目について、以下の様に評価・対応しました。			
<input type="checkbox"/> 問題なし <input checked="" type="checkbox"/> 問題あり (食欲低下があり、グリメピリド及びドネペジル等を中止しています)			
【身体所見】可能な範囲で記入をお願いします。			
体重 XX kg 血圧 100-110/50-60mmHG 脈拍 XX /分			
【報告および提案事項】			
薬は90歳の夫が管理していましたが、本人が腰痛のため外出できなくなってからも外來時の処方箋を長期継続されていました。定期的な通院することが困難になったため、かかりつけ医が訪問診療を開始し、食欲が低下していること、低血糖状態を生じていることが明らかとなり、グリメピリド及び食欲を低下させる恐れのあるドネペジルを中止しています。また、血圧も100-110/50-60mmHg程度に低下したため、アムロジピンを中止し、慢性腎臓病を有していることから、高マグネシウム血症を起こすため、酸化マグネシウムを中止し、便通が続きときにセンソタンを服用することとしています。夕食後からうらととして就寝前にプロチゾラムを飲み忘れることが多いことも判明したため、プロチゾラムも中止しています。			

退院後の定期服用内服数を記載

退院後の服薬アドヒアランスを確認

退院時に注意喚起を行った事項(ポリファーマシー対策等)の評価と対応を記載

ポリファーマシーに関するチェックボックス

各種評価と対策に基づいた処方提案内容等を記載

# 業務実施方針

## (業務手順書における課題確認と課題に対する実施事項)

「病院における高齢者のポリファーマシー対策の始め方と進め方」の実運用調査  
(既にある程度ポリファーマシー対策を導入している施設)

- イ. 業務手順書等によるポリファーマシー対策の導入
- ウ. 業務手順書等における「ポリファーマシー対策を始める際の課題と対応策」についての課題確認
- エ. ポリファーマシーカンファレンス等の実施
- オ. ポリファーマシー対策における自施設の業務手順書の整備
- カ. 事業実施前後のアウトカム評価



当方での事業計画及び進捗状況等について示させて頂く。

# 業務実施方針一覧①

業務手順書の該当部分			当院での活動を踏まえた課題・考察	手順書への記載の有無	実施方法	作業No
第1章3(1) 人員不足で対象患者の抽出や検討する時間を作れない	第2章2(1)5)ア) 処方見直し対象患者をスクリーニングする	第2章2(1)3)ア) 薬剤に関する情報を把握する	・スクリーニングツールが十分に活用できていない。一度に複数の項目に対しスクリーニングを行うことで効率化を図り、抽出漏れやマンパワー不足を解消する。	手順書の記載あり。自施設に落とし込み。	当院薬剤部のシステム担当者と当院の電子カルテ（ソフトウェアサービス（株）SSI）システム担当者が協議し、CSV形式でのデータ抽出が可能な部分を把握し、エクセルベースのスクリーニングシステムを作成する。持参薬鑑別時のデータをそのまま活用できる形式で保存できる仕組みを作成する。また、薬剤部門システム（ユヤマ（株））システム担当者に対し、システムのバージョンアップを含めスクリーニングシステムの検討・作成を依頼する。ツールについては汎用性を考慮し、エクセルファイル形式のツールを当方にて作成する。	1,2,3
第1章3(1) 人員不足で対象患者の抽出や検討する時間を作れない	第2章1(8) ポリファーマシー対策のデジタル化を進める		・スクリーニングの後にカンファレンス資料の作成に時間を要している。	手順書の記載なし。	スクリーニング後のデータを利用してカンファレンス資料「ポリファーマシー評価表」を簡便に作成する。	2,4-2
第1章2(4) 既にある仕組みやツールを活用する	第2章1(7) ポリファーマシー対策の成果をモニタリングする		・当院の薬剤管理サマリーではポリファーマシーに関する記載項目を設けているが、薬局での介入時にポリファーマシー対応が為されていない事例が見られる。	手順書の記載△。	薬剤管理サマリー及び介入状況報告書（返書）の改定を行い、ポリファーマシー対策後のフォローアップについては漏れのない対応を依頼する。	4-1
第1章3(1) 人員不足で対象患者の抽出や検討する時間を作れない	第2章1(5) 人員体制をつくる	第2章2(1) 入院患者へ対応する	・タスクシェアリングを図ることで、チーム及び個人負担を軽減する。	手順書の記載なし。	・ポリファーマシーチームがスクリーニングした抽出患者に対し、病棟担当薬剤師を含めた多職種が病棟での処方見直し（個別カンファレンス）を行う。 ・病棟担当薬剤師が能動的に個別カンファレンスを実施できる仕組みを検討する。	2,6
第1章3(5) 医師が自科以外の処方薬を調整することが難しい	第1章3(7) 見直し後の処方内容をかかりつけ医へフィードバックする体制が構築されていない	第2章2(1)5)イ) 主治医と調整する	・ポリファーマシーカンファレンスは定期的（週1回）に実施しているが、対象はチーム所属医の患者のみと限定されている。また、かかりつけ医や他科の処方調整が難しいとの意見もある。介入対象やカンファレンス形式等を見直すことによりポリファーマシーが疑われる入院患者全てに対して円滑な介入を実施する。	手順書の記載なし。	・対象患者を拡大しチームカンファレンスのみならず、病棟での医師・薬剤師・看護師等による処方見直し（個別カンファレンス）を拡充する。 ・当院医局及び地域医師会に対しポリファーマシーに関する啓発活動を行い、地域の開業医に対しアンケート調査及びポリファーマシー対応への同意を取得する。	5-1,5-2,6,14-2

## 業務実施方針一覧②

第1章3(7)見直し後の処方内容をかかりつけ医へフィードバックする体制が構築されていない	第2章1(8)ポリファーマシー対策のデジタル化を進める		・カンファレンス内容をかかりつけ薬局のみならず、かかりつけ医へフィードバックする体制が整っていない。	手順書の記載△。	カンファレンス資料「ポリファーマシー評価表」を兼報告書として活用し、医師からの診療情報提供書に添付する。また、退院後の処方内容状況についても調査を行う。	4-2
第1章3(4)ポリファーマシーであるかを判断することが難しい			当院では指針等の参考資料を取りそろえ、参考にしている。ポリファーマシーチームの薬剤師はオンライン等のポリファーマシー研修会に積極的に参加し、研鑽をつんでおり、ポリファーマシーの判断レベルも向上してきていると感じている。	手順書の記載なし。	第2章1(3)の取り揃えておくべき資料をこちらにもショートカット作成。また、オンライン研修会等での研鑽を追記してはどうか。	Noなし
第1章3(6)病態全体をとらえることが難しい			当院では総合内科医がポリファーマシーチームメンバーに所属しており、病態全体を把握しやすい体制となっている。また、ポリファーマシーチームへも相談・依頼も随時可能なため、円滑な介入が実施できている。	手順書の記載△。	ポリファーマシーチームへの総合内科医の所属の記載は既にある。チームへの相談・依頼が随時可能な仕組み構築の追記してはどうか。	Noなし
第1章1(2)院内の理解を深める	第1章3(2)多職種連携が十分でない	第2章2(3)職員への啓発活動を行う	・ポリファーマシーチームには医師、薬剤師以外にも看護師、管理栄養士、理学療法士、言語聴覚士が所属しているが、ポリファーマシーに関する症例相談件数は少ない。多職種及び他チームがポリファーマシーに関する視点を持つことで、ポリファーマシーチームへの相談件数を増加させる	手順書の記載△。	多職種を対象とした、ポリファーマシー研修会を企画し、スタッフの理解を深める。同時に、NSTなどの各種専門チーム内でもポリファーマシーに関する認識を持って貰えるよう、専門チーム内でのポリファーマシー研修会を企画する。また、各部署ごとに研修会を開催することで、その専門職に知っておいて貰いたいポイントや知識を細やかに提供する。その際にはアンケート調査を行い、各職種の理解度を確認する。	7,8,9,14-1
第2章1(7)ポリファーマシー対策の成果をモニタリングする			現在手順書に示されている内容以外の項目で必要なものを検討する必要あり。	手順書の記載なし。	今回の事業における調査結果から新たな項目を検索する。	10~16

# 業務実施方針

## (業務手順書における課題確認と課題に対する実施事項)

当院での状況：スクリーニングツールが十分に活用できていない。一度に複数の項目に対しスクリーニングを行うことで効率化を図り、抽出漏れやマンパワー不足を解消する。



第1章3 (1) 人員不足で対象患者の抽出や検討する時間を作れない  
第2章2 (1) 3) ア) 薬剤に関する情報を把握する  
第2章2 (1) 5) ア) 処方見直し対象患者をスクリーニングする



- ・ 当院薬剤部のシステム担当者と電子カルテ（S社）システム担当者が協議し、CSV形式でのデータ抽出が可能な部分を把握し、既存のシステムのままエクセルベースのスクリーニングシステムを作成する。
- ・ 持参薬鑑別時のデータをそのまま活用できる形式で保存できる仕組みを作成する。
- ・ 薬剤部門システム（Y社）システム担当者に対し、システムのバージョンアップを含めスクリーニングシステムの検討・作成を依頼する。ツールについては汎用性を考慮し、エクセルファイル形式のツールを当方にて作成する。

# 業務実施方針

## (業務手順書における課題確認と課題に対する実施事項②)

当院での状況：スクリーニングの後にカンファレンス資料の作成に時間を要している。



第1章 3 (1) 人員不足で対象患者の抽出や検討する時間を作れない  
第2章 1 (8) ポリファーマシー対策のデジタル化を進める



・スクリーニング後のデータを利用してカンファレンス資料「ポリファーマシー評価表」を簡便に作成する。

## 業務実施方針

### (業務手順書における課題確認と課題に対する実施事項③)

- ・ 当院の薬剤管理サマリーではポリファーマシーに関する記載項目を設けているが、薬局での介入時にポリファーマシー対応が為されていない事例が見られる。



第1章2(4) 既にある仕組みやツールを活用する  
第2章1(7) ポリファーマシー対策の成果をモニタリングする



- ・ 薬剤管理サマリー及び介入状況報告書(返書)の改定を行い、ポリファーマシー対策後の薬局でのフォローアップについては漏れのない対応を依頼する。

## 業務実施方針

### (業務手順書における課題確認と課題に対する実施事項④)

- ・タスクシェアリングを図ることで、チーム及び個人負担を軽減する。



第1章 3 (1) 人員不足で対象患者の抽出や検討する時間を作れない  
第2章 1 (5) 人員体制をつくる  
第2章 2 (1) 入院患者へ対応する



- ・ポリファーマシーチームがスクリーニングした抽出患者に対し、病棟担当薬剤師含めた多職種が病棟での処方見直し（個別カンファレンス）を行う。
- ・病棟担当薬剤師が能動的に個別カンファレンスを実施できる仕組みを検討する。



## 業務実施方針

### (業務手順書における課題確認と課題に対する実施事項⑤)

・ポリファーマシーカンファレンスは定期的（週1回）に実施しているが、対象はチーム所属医の患者のみと限定されている。また、かかりつけ医や他科の処方調整が難しいとの意見もある。介入対象やカンファレンス形式等を見直すことによりポリファーマシーが疑われる入院患者全てに対して円滑な介入を実施する。



第1章3（5）医師が自科以外の処方薬を調整することが難しい  
第1章3（7）見直し後の処方内容をかかりつけ医へフィードバックする体制が構築されていない  
第2章2（1）5）イ）主治医と調整する



・対象患者を拡大しチームカンファレンスのみならず、病棟での医師・薬剤師・看護師等による処方見直し（個別カンファレンス）を拡充する。  
・当院医局及び地域医師会に対しポリファーマシーに関する啓発活動を行い、地域の開業医に対しアンケート調査及びポリファーマシー対応への同意を取得する。

## 業務実施方針

### (業務手順書における課題確認と課題に対する実施事項⑥)

- ・カンファレンス内容をかかりつけ薬局のみならず、かかりつけ医へフィードバックする体制が整っていない。



第1章3 (7) 見直し後の処方内容をかかりつけ医へフィードバックする体制が構築されていない  
第2章1 (8) ポリファーマシー対策のデジタル化を進める



カンファレンス資料「ポリファーマシー評価表」を兼報告書として活用し、医師からの診療情報提供書に添付する。また、退院後の処方内容状況についても調査を行う。

## 業務実施方針

### (業務手順書における課題確認と課題に対する実施事項⑦)

・ポリファーマシーチームには医師、薬剤師以外にも看護師、管理栄養士、理学療法士、言語聴覚士が所属しているが、ポリファーマシーに関する症例相談件数は少ない。多職種及び他チームがポリファーマシーに関する視点を持つことで、ポリファーマシーチームへの相談件数を増加させる



第1章 1 (2) 院内の理解を深める  
第1章 3 (2) 多職種連携が十分でない  
第2章 2 (3) 職員への啓発活動を行う



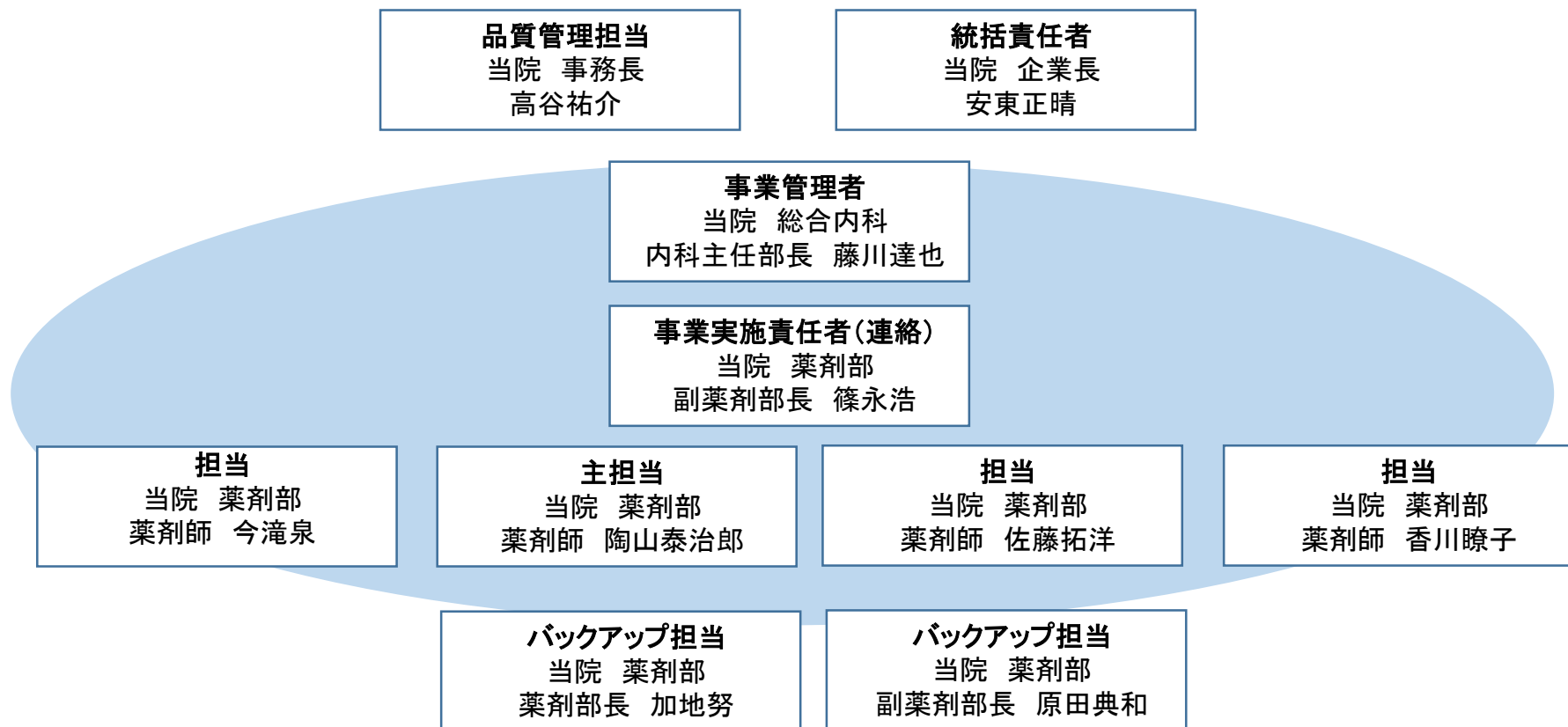
- ・多職種を対象として各部署ごとに研修会を開催することで、その専門職に知っておいて貰いたいポイントや知識を細やかに提供する。同時に、NSTなどの各種専門チーム内でもポリファーマシー研修会を企画する。
- ・アンケート調査を行い、各職種の理解度を確認する。

# 作業計画・スケジュール（作業体制）

本事業は、事業管理者1名、事業実施責任者1名、技術担当者4名の合計6名体制とし、事業実施責任者の篠永を連絡窓口とする。事業実施責任者及び主担当を中心に技術者間で調査の進捗状況や調査結果等を随時報告・共有しながら柔軟に業務を進める。

管理体制としては、本事業の担当業務を持たない「品質管理担当」及び「総括責任者」を各1名配置する。両者は客観的に業務の進捗状況等を把握し、実施体制のフォローを行う。

バックアップ体制としては、薬剤部内の経験豊富な業務メンバーにて対応可能であり、遅滞なく業務を遂行する。



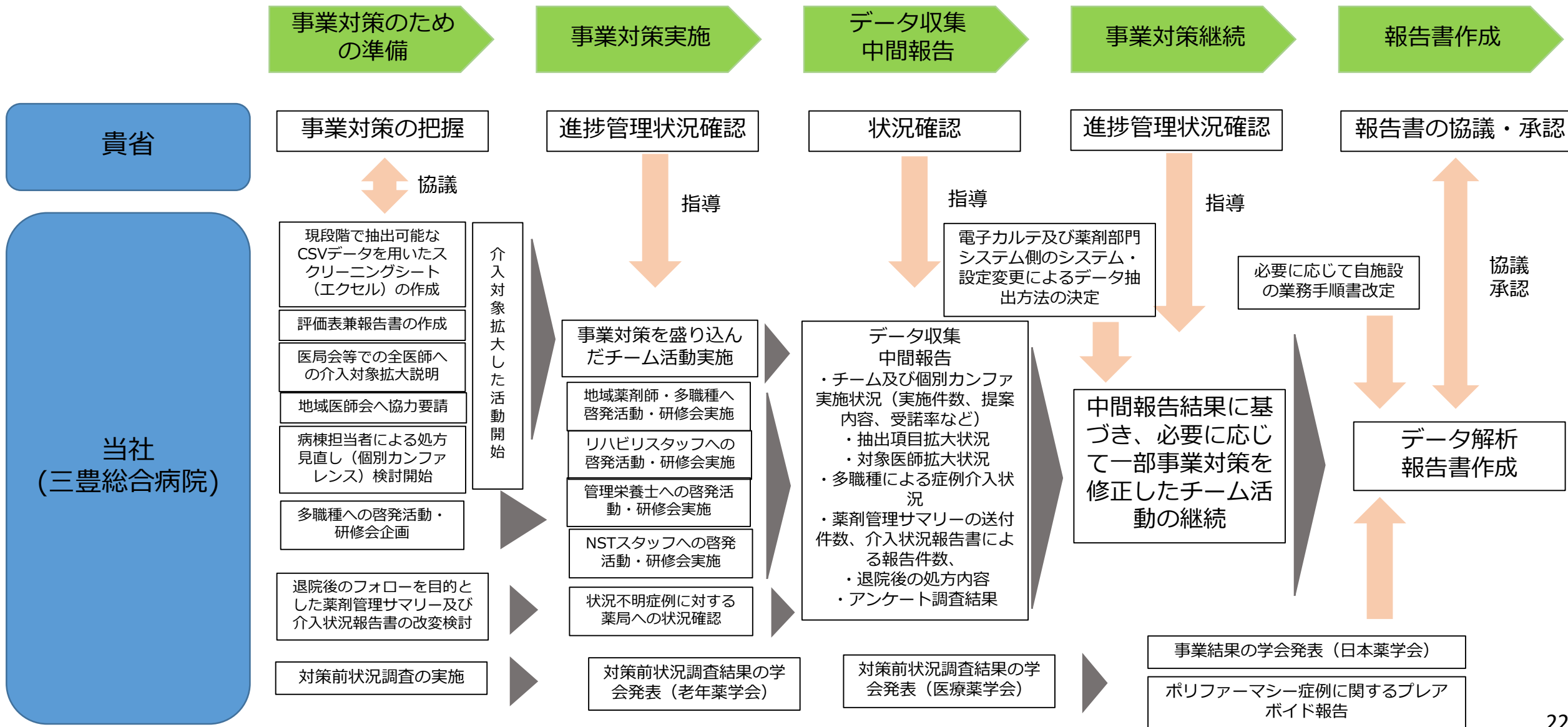
## 作業計画・スケジュール（作業体制）

区分	氏名	本事業における役割分担
統括	安東 正晴	◆統括責任者
品質管理	高谷 祐介	◆品質管理担当 ・品質管理 ・成果物の確認 ・会計確認等
事業管理	藤川 達也	◆事業管理者 ・ポリファーマシーチーム運営 ・啓発活動
実施責任者	篠永 浩	◆事業実施責任者(連絡窓口) ・業務計画書の作成 ・業務全体の管理 ・調査方法検討 ・分析・集計のサポート ・謝金等会計対応 ・報告書作成 ・学会発表サポート ・厚生労働省打ち合わせ
主担当	陶山 泰治郎	◆主担当(システム担当) ・業務全体の管理 ・調査方法検討 ・分析・集計 ・報告書作成 ・学会発表 ・システム検討・対応

区分	氏名	本事業における役割分担
担当	佐藤 拓洋	◆担当(データ集計) ・スクリーニング補助 ・カンファレンス補助 ・各種データ集計 ・フォローアップ補助
担当	今滝 泉	◆担当(スクリーニング・カンファレンス担当) ・スクリーニング ・カンファレンス
担当	香川 瞭子	◆担当(フォローアップ担当) ・スクリーニング補助 ・カンファレンス補助 ・退院後のフォロー調査
担当	加地 努	*バックアップメンバー
担当	原田 典和	*バックアップメンバー

# 作業計画・スケジュール（作業計画書）

本事業に係る作業計画は以下の通りである。



# 作業計画・スケジュール（作業スケジュール）

作業概要	作業No	作業名	2021																																2022																																																															
			5月				6月				7月				8月				9月				10月				11月				12月				1月				2月				3月																																																							
			1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4																																																								
計画		全体設計	作業計画書等																																																																																															
		進捗管理表	作成以降、事業完了まで使用																																																																																															
		課題整理	チームにて状況確認																																																																																															
チーム活動	1	チームカンファレンスの実施	週1回チームカンファレンスを実施(継続)																																																																																															
スクリーニングツール改変	2	現段階で可能な抽出項目拡大スクリーニングシートの作成	作成開始				運用開始(未完)																																																																																											
	3	電子カルテ及び薬剤部門システム側のシステム・設定変更によるデータ抽出方法の決定					各ベンダーと打ち合わせ開始								運用開始																																																																																			
連携ツール改変	4-1	退院後のフォローを目的とした薬剤管理サマリー及び介入状況報告書の改変	作成開始				運用開始																																																																																											
	4-2	ポリファーマシー評価表兼報告書の作成・送付					作成開始								運用開始																																																																																			
介入対象の拡大	5-1	対象医師拡大を目的とした医局会での周知	医局会で周知																																																																																															
	5-2	地域医師会への周知					地域医師会での周知																																																																																											
	6	病棟担当者からの処方提案(個別カンファレンス)					運用開始																																																																																											
多職種への普及啓発	7	リハビリスタッフへの研修会					研修会企画																																																																																											
	8	管理栄養士への研修会					研修会企画																																																																																											
	9-1	専門チーム内での研修会					研修会企画																																																																																											
	9-2	地域薬剤師への研修会					研修会企画																																																																																											
	9-3	地域多職種への研修会					研修会企画																																																																																											
実証調査	10	チーム及び個別カンファ実施状況調査(実施件数、提案内容、受諾率など)													前半データを収集				中間報告								最終データを収集・解析、報告書作成																																																																							
	11	抽出項目拡大状況調査													前半データを収集				中間報告								最終データを収集・解析、報告書作成																																																																							
	12	対象医師拡大状況調査													前半データを収集				中間報告								最終データを収集・解析、報告書作成																																																																							
	13	多職種による症例介入状況調査													前半データを収集				中間報告								最終データを収集・解析、報告書作成																																																																							
	14-1	リハビリ管理栄養士へのアンケート調査					アンケート作成								アンケート集計・解析				中間報告																																																																															
	14-2	開業医へのアンケート調査					アンケート作成								アンケート集計・解析				中間報告																																																																															
	15	薬剤管理サマリートの送付件数、介入状況報告書による報告件数調査													前半データを収集				中間報告								最終データを収集・解析、報告書作成																																																																							
	16	退院後の処方内容調査													前半データを収集				中間報告								最終データを収集・解析、報告書作成																																																																							
調査結果の活用	17	自施設の業務手順書の改定																													改定検討																																																																			
普及啓発活動	18	学会発表	日本老年薬学会												日本医療薬学会								香川県地域包括ケアシステム学会								日本薬学会																																																																			
	19	ブレアボイ報告					報告開始																												報告書納品																																																															
報告書作成	20	報告書作成・印刷・製本																													報告書作成開始				報告書納品																																																															
打ち合わせ			第2回報告会までは2週間ごと																																第2回報告会後は1か月ごと																																最終報告書作成 2週間ごと																															

# 進捗管理表No1-9

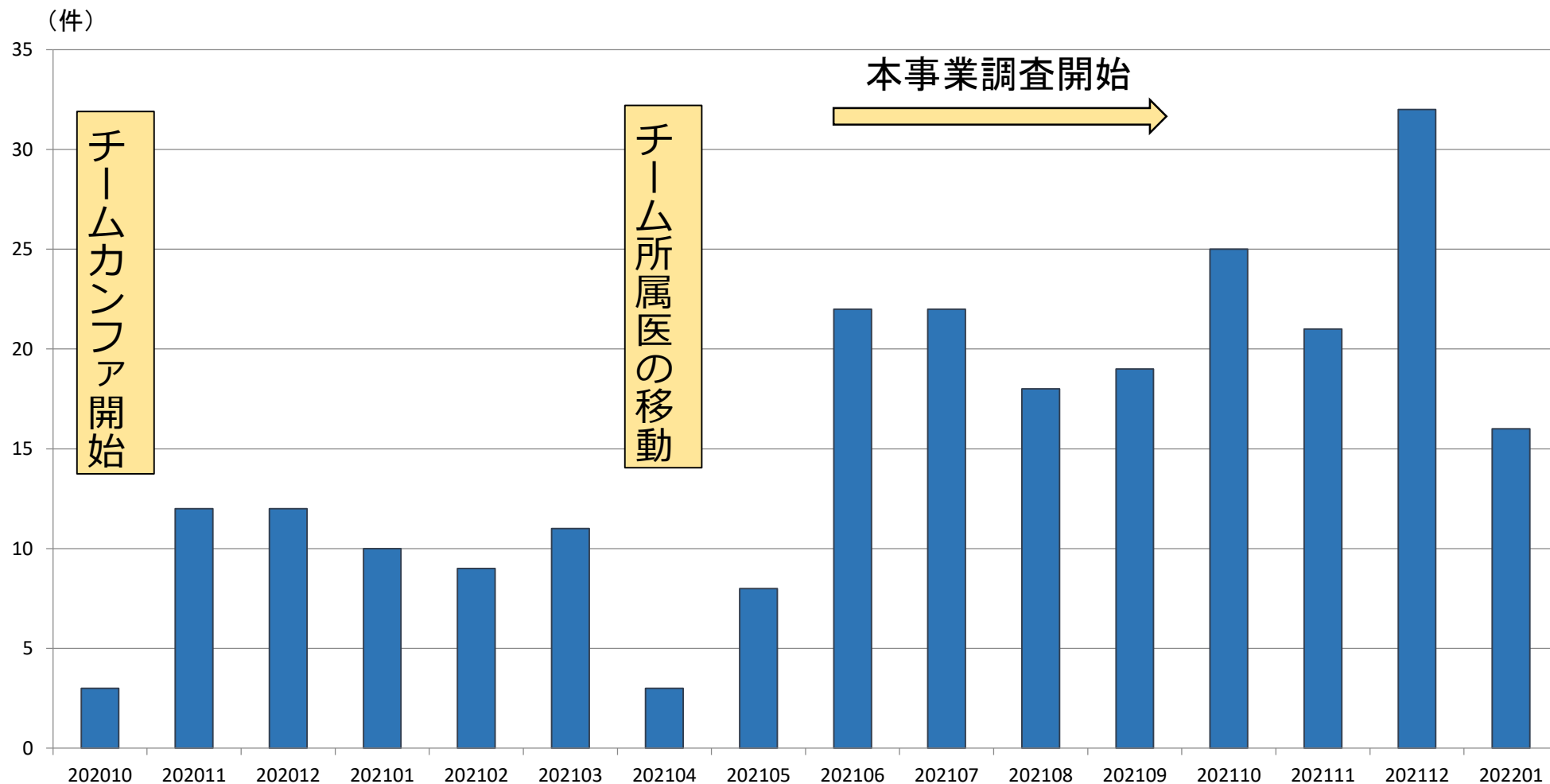
作業No	作業名	発生する成果物	作業の開始日	完了予定日	備考	完了日	完了基準等
1	チームカンファレンスの実施	チームカンファレンス実施結果	5/7	12/31		12/31	週1回の継続した実施可
2	現段階で可能な抽出項目拡大スクリーニングシートの作成	スクリーニングシート	5/14	8/31		8/31	実運用開始
3	電子カルテ及び薬剤部門システム側のシステム・設定変更によるデータ抽出方法の決定	スクリーニングシート	6/14	12/31		12/31	実運用開始
4-1	退院後のフォローを目的とした薬剤管理サマリー及び介入状況報告書の改変	修正後の薬剤管理サマリー及び介入状況報告書	5/14	6/11		6/30	実運用開始
4-2	ポリファーマシー評価表兼報告書の作成・送付	ポリファーマシー評価表兼報告書	7/1	8/31		10/30	実運用開始
5-1	対象医師拡大を目的とした医局会での周知	業務手順書等の実証調査報告書	5/17	5/27		5/27	周知実施
5-2	地域医師会への周知	業務手順書等の実証調査報告書	6/14	7/12		7/12	周知実施
6	病棟担当者からの処方提案(個別カンファレンス)	業務手順書等の実証調査報告書	6/14	12/31		12/31	継続した実施可
7	リハビリスタッフへの研修会	研修会実施結果	6/1	6/30		6/10	研修会実施
8	管理栄養士への研修会	研修会実施結果	6/1	6/30		6/16	研修会実施
9-1	専門チーム内での研修会	研修会実施結果	6/21	8/16		8/16	研修会実施
9-2	地域薬剤師への研修会	研修会実施結果	6/1	8/18		8/18	研修会実施
9-3	地域多職種への研修会	研修会実施結果	6/1	9/16		9/16	研修会実施



# 進捗管理表No10-20

10	チーム及び個別カンファ実施状況調査(実施件数、提案内容、受諾率など)	業務手順書等の実証調査報告書	9/1、1/4	9/30、1/31	1/31までのデータで集計中		報告書作成
11	抽出項目拡大状況調査	業務手順書等の実証調査報告書	9/1、1/4	9/30、1/31	1/31までのデータで集計中		報告書作成
12	対象医師拡大状況調査	業務手順書等の実証調査報告書	9/1、1/4	9/30、1/31	1/31までのデータで集計中		報告書作成
13	多職種による症例介入状況調査	業務手順書等の実証調査報告書	9/1、1/4	9/30、1/31	1/31までのデータで調査中		報告書作成
14-1	リハビリ・管理栄養士へのアンケート調査	アンケート調査結果	6/1	9/30		8/31	アンケート集計、解析
14-2	開業医へのアンケート調査	アンケート調査結果	6/14	9/30		8/31	アンケート集計、解析
15	薬剤管理サマリーの送付件数、介入状況報告書による報告件数調査	業務手順書等の実証調査報告書	9/1、1/4	9/30、1/31	1/31までのデータで集計中		報告書作成
16	退院後の処方内容調査	業務手順書等の実証調査報告書	9/1、1/4	9/30、1/31	1/31までのデータで集計中		報告書作成
17	自施設の業務手順書の改定	改定後の業務手順書	2/1	2/28			自施設の業務手順書改定
18	学会発表	業務手順書等の普及啓発活動報告書	5/15、10/9、12/17、3/25	5/15、10/9、12/19、3/25	5/15、10/9、12/19発表済		報告書作成
19	プレアボイド報告	業務手順書等の普及啓発活動報告書	6/14	12/31	1/31までのデータで集計中		報告書作成
20	報告書作成・印刷・製本	業務手順書等の実証調査報告書・業務手順書等の	2/1	2/28			報告書作成

# 進捗：作業No1（薬剤総合評価調整加算算定件数）

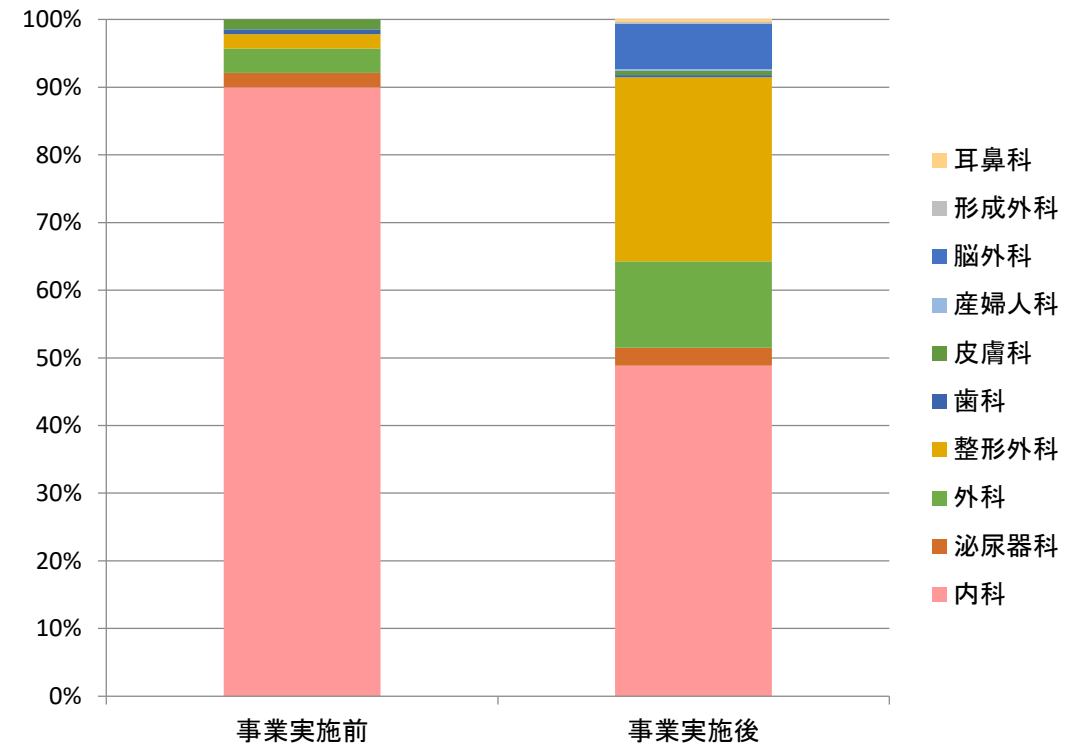


事業実施前：8.5件/月 → 事業実施後：21.9件/月

# 進捗：作業No1（介入患者数（延べ）及び転帰、診療科）

	事業実施前	事業実施後
	131人(139人)	286人(305人)
退院	85人	132人
転院	36人	99人
死亡	10人	31人
入院中	0人	24人

## 介入を実施した患者の診療科



事業実施後、**院内医局会**及び**地域医師会**にて介入対象を全入院患者へ拡大することの**同意**が得られたことにより、**全科に拡大**

# 進捗：作業No2（事業実施後のスクリーニングシート：チームカンファ用）

患者ID	病棟	診療科	氏名	性別	年齢	入院日	退院日	入院日数	主治医	抽出時内服薬剤数	抽出時PIMs数	鑑別時内服薬剤数	鑑別時PIMs数	減薬希望	PIMs	入院病名	介入の有無	転倒の有無	検査値逸脱(薬品)	検査項目	検査値	徐脈(薬剤)	徐脈(平均HR)	低血圧(薬剤)	低血圧(平均)	高血圧	エネルギー必要量	エネルギー摂取量	CO	NU	BI	HDS-R	MMSE	嚥下機能	KT	せん妄
	西棟4階病	外科		女	88歳	2021/6/29		52	谷口 厚希	2	1	6	1		持)エラゾール700 産血性腸炎												1581	800			0		28	水		
	西棟4階病	外科		男	80歳	2021/8/14		6	吉田 修	9	0	6	1		鉄鉤性イレウス																					
	西棟4階病	外科		女	77歳	2021/7/25		26	吉田 修	13	0	13	4		門脈ガス血症	介入済み															0					
	西棟4階病	外科		男	78歳	2021/7/30		21	渡辺 信之	11	2	7	2		持)リクソナD錠3 肝細胞癌																0					
	西棟5階病	脳外科		男	66歳	2021/6/18		63	青藤 信之	7	2	7	2		持)リクソナD錠3 脳梗塞・急性期															70	28	29	水			
	西棟5階病	脳外科		男	83歳	2021/7/27		24	大久保 信之	8	2	6	2		持)ハイビス700錠 アテローム血栓															0						
	西棟5階病	脳外科		男	81歳	2021/8/14		16	大久保 信之	12	5	10	4	未い	持)リクソナD錠3 多発性脳梗塞															10						

## 事業実施前の介入対象患者抽出基準

【チームカンファレンス対象患者】

- ① チーム所属医が主治医、② 入院前及びカンファレンス当日の常用内服薬が6種類以上、③ 退院日未定

【病棟（個別）カンファレンス対象患者】

- ① 特定の薬剤（Wfなど）に設定した検査値が基準値から逸脱、② 同効薬重複

\* PIMsの有無などについては参考情報として活用

西棟7階病	整形外科		男	88歳	2021/8/6		14	藤村 亮	10	1	9	3		持)リクソナD錠5 右大腿骨頸部	転倒誌あり															5	10	7	15	とろみ	
-------	------	--	---	-----	----------	--	----	------	----	---	---	---	--	------------------	-------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	----	---	----	-----	--

## 事業実施後の介入対象患者抽出基準

【チーム及び病棟（個別）カンファレンス対象患者】

全入院患者、内服常用薬6種類以上、退院日未定、PIMs、検査値、同効薬重複、減薬希望、せん妄リスク、転倒リスク、日常生活動作、認知機能、嚥下機能、バイタルサイン、栄養状態

南棟2階病	内科		男	70歳	2021/8/12		0	海野 雄二	10	3	10	4		持)リクソナD錠1000 産血性腸炎																						
南棟2階病	泌尿器科		男	79歳	2021/8/18		2	上松 克希	6	0	6	1		膀胱癌の疑い																						
南棟2階病	皮膚科																																			
南棟2階病	皮膚科																																			
南棟2階病	泌尿器科																																			
南棟2階病	内科																																			

（作成に要する時間） 事業前：薬剤師75分/週⇒事業後：事務44分/週

# 進捗：作業No3（事業実施後のスクリーニングシート：病棟個別カンファ用）

**事業実施前の介入対象患者抽出基準**  
**病棟担当薬剤師がハイリスクと判断した患者**  
 +  
**特定の薬剤と検査値でスクリーニングを実施した患者**

スクリーニングシート

ポリファーマシー対策用ソフト  
を用いたスクリーニングシート



**事業実施後の介入対象患者抽出基準**

- ・スクリーニングシートにて抽出され、チームカンファによる介入対象から外れた患者
- +
- ・ポリファーマシー対策用ソフト（Y社）にて抽出された患者

患者ID	病棟	診療科	年齢	性別	身長	体重	血圧	血糖	腎機能	肝機能	薬剤	検査値	リスク	備考
65歳	201/018	2 山地 謙二	14	5	14	6	101/70	54	15	糖患歴 Lv4				
65歳	201/014	27 森 久寿	13	2	12	2	101/72	48	15	糖患歴 Lv5				
63歳	201/013	7 岸之上 真	10	5	8	5	101/72	40	10	糖患歴 Lv5				
63歳	201/018	12 山地 謙二	10	3	9	2	101/72	40	8	糖患歴 Lv5				
63歳	201/019	22 藤井 洋介	11	3	6	2	101/72	40	10	糖患歴 Lv5				
63歳	201/016	14 藤村 亮	10	1	9	3	101/72	40	7	糖患歴 Lv5				
65歳	201/010	21 佐藤 亮二	10	2	8	3	101/72	40	7	糖患歴 Lv5				せん薬あり
66歳	201/011	40 藤村 亮	12	3	12	5	あり	101/72	25	糖患歴 Lv4				
73歳	201/016	26 志波 洋	14	3	7	2	101/72	40	15	糖患歴 Lv4				
73歳	201/019	20 藤井 洋介	10	2	9	3	あり	101/72	14	糖患歴 Lv5				
65歳	201/014	16 志波 洋	13	1	20	2	101/72	40	14	糖患歴 Lv5				
58歳	201/016	4 辻藤 日登	6	0	7	1		101/72	14	糖患歴 Lv5				
74歳	201/017	13 山地 謙二	9	1	9	1	101/72	40	14	糖患歴 Lv5				
73歳	201/018	12 西山 将	9	3	8	4	101/72	40	14	糖患歴 Lv5				
67歳	201/010	10 中津 望	9	3	8	2	101/72	40	14	糖患歴 Lv5				
75歳	201/015	46 上松 克洋	9	0	8	2		101/72	14	糖患歴 Lv5				
72歳	201/016	14 青藤 遼	5	0	7	0		101/72	14	糖患歴 Lv5				せん薬あり
47歳	201/018	23 太田 茂	12	2	16	3	101/72	40	14	糖患歴 Lv5				
70歳	201/012	8 藤崎 達	10	3	10	4	101/72	40	14	糖患歴 Lv5				
70歳	201/014	2 上松 克洋	6	0	6	1		101/72	14	糖患歴 Lv5				
91歳	201/019	11 松田 吉弘	10	2	8	2	101/72	40	14	糖患歴 Lv5				
70歳	201/011	9 青藤 遼	8	0	6	1		101/72	14	糖患歴 Lv5				せん薬あり
70歳	201/013	7 佐野 健	8	2	11	3	101/72	40	14	糖患歴 Lv5				
60歳	201/010	10 石津 勉	1	1	11	4	101/72	40	14	糖患歴 Lv5				

チームカンファ用  
に週1回作成

1日1回特定の薬剤と検査値で自動抽出。病棟でも簡単に確認・対応可能。

# 進捗：作業No4-1（薬剤管理サマリーの改変）

※各論編・事例8を参考に作成（84歳女性、急性期病院）

薬剤管理サマリー

作成日		1900/1/0		更新日		1900/1/0			
担当薬剤師		0		担当薬剤師		0			
患者ID		0		性別		0			
氏名		▲▲▲▲		様年					
管理状況		<input checked="" type="checkbox"/> 自己 <input type="checkbox"/> 看護師 <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり ( ) <input type="checkbox"/> PTP <input checked="" type="checkbox"/> 一包装 <input checked="" type="checkbox"/> 経口 <input type="checkbox"/> 経管 <input checked="" type="checkbox"/> 自己 <input type="checkbox"/> 家族 <input type="checkbox"/> 医療機関 <input checked="" type="checkbox"/> 自宅(独居)		<input type="checkbox"/> 自己 <input type="checkbox"/> 看護師 <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> PTP <input type="checkbox"/> 一包装 <input type="checkbox"/> 粉砕 <input type="checkbox"/> 簡易懸濁 <input type="checkbox"/> その他 ( ) <input type="checkbox"/> 経口 <input type="checkbox"/> 経管 <input type="checkbox"/> その他 ( ) <input type="checkbox"/> 自己 <input type="checkbox"/> 家族 <input type="checkbox"/> 医療介護スタッフ <input type="checkbox"/> その他 ( ) <input type="checkbox"/> 医療機関 <input type="checkbox"/> 自宅(独居) <input type="checkbox"/> 自宅(夫婦二人暮らし) <input type="checkbox"/> 自宅(複数世代同居) <input type="checkbox"/> 施設		次回当院 予約日 1月0日		入院日 入院日 1900/1/0	
入院後の追加薬剤:		ピコスルファート内用液、エソゾピクロン、カルベジロール イバンドロン酸(静注) デュラグルチド皮下注		入院後の中止薬剤:					
特記事項(退院後の注意事項・投与方法に注意を要する) 退院後の主な注意点 <input checked="" type="checkbox"/> 副作用モニタリング <input type="checkbox"/> 処方箋 (複数選択可) <input checked="" type="checkbox"/> 生活環境 <input type="checkbox"/> その他 ( ) 服用管理の注意点 <input checked="" type="checkbox"/> 飲み忘れ <input checked="" type="checkbox"/> 残薬 <input type="checkbox"/> 残数 (複数選択可) <input type="checkbox"/> 薬への不安 <input checked="" type="checkbox"/> 生活習慣		特記事項(退院後の注意事項・投与方法に注意を要する薬剤等) 退院後の主な注意点 <input type="checkbox"/> 副作用モニタリング <input type="checkbox"/> 処方変更に伴う薬学的評価 <input type="checkbox"/> 薬剤投与方法 <input type="checkbox"/> フレイル・低栄養 (複数選択可) <input type="checkbox"/> 生活環境 <input type="checkbox"/> その他 ( ) 服用管理の注意点 <input type="checkbox"/> 飲み忘れ <input type="checkbox"/> 残薬 <input type="checkbox"/> 残数ばらつき <input type="checkbox"/> 自己調整 <input type="checkbox"/> 身体機能の低下 <input type="checkbox"/> 認知機能の低下 (複数選択可) <input type="checkbox"/> 薬への不安 <input type="checkbox"/> 生活習慣 <input type="checkbox"/> ポリファーマシー <input type="checkbox"/> 問題なし		入院中の経過及び伝達事項 入院時、腎機能がeGFR 27mL/min/1.73m <sup>2</sup> と低下してい 体の見直しを行いました。なお、患者は目が悪く、服用薬 血糖コントロールは良好であり、退院後のアドヒアランス 射手技は問題なく習得できています。 処方については一包装をお願いいたします。		チーム介入内容 ※減薬された薬剤について再度処方ある場合、患者・処方医への確認等、よろしくお願い致します。詳 細は下記ご参照下さい。			
入院時処方内容(持参薬)		■■ 内服薬・外用薬 ■■ 循環器内科)		入院時処方内容(持参薬)		■■ 内服薬・外用薬 ■■			
退院時処方内容		■■ 内服薬・外用薬 ■■		退院時処方内容		■■ 内服薬・外用薬 ■■			

ポリファーマシーチーム  
の介入の有無



ポリファーマシーチーム  
の介入内容について別  
途記載欄を作成



1 ページ

# 進捗：作業No4-1（介入状況報告書の改変）

診療科	
医師名	
院内担当薬剤師	
患者ID	
患者名	
入院日	退院日
XX/XX	XX/XX

退院時に情

【管理者、調剤形態、生活環境に変

変更なし  変更あり

◆退院時の定期内服数 7 剤

【退院後から現在の服用状況につい

薬の飲み忘れがあった  
 具合の良いときに、薬を休んで  
 問題なし

【評価・対応】

副作用モニタリング  処方変更に伴

生活環境  飲み忘れ  
 身体機能の低下  認知機能の低

上記項目について、以下の様に評

問題なし  問題あり  
 追加対応

【身体所見】可能な範囲で記入お願い

体重     

【報告および提案事項】

薬は90歳の夫が管理していましたが、本人が定期的な通院することが困難になったため、かことが明らかとなり、グリメピリドまた、血圧も100-110/50-60mmHg程度に低下したため、酸化マグネシウムを中夕食後からうとうとして就寝前にプロチゾラムを

三豊総合病院 御中 指導日 年 月 日

返書(介入状況報告書)※入院中に、当院のポリファーマシーチームにて介入を行った患者様になります。

診療科	科	保険薬局 名称・所在地
医師名	先生御侍史	
院内担当薬剤師	0	
患者ID	0	電話番号 FAX番号
患者名	0	担当薬剤師 印
入院日	退院日	この情報伝えることに対して患者様の同意を <input type="checkbox"/> 得た <input type="checkbox"/> 得ていない <input type="checkbox"/> 患者様は医師への報告を拒否していますが、治療上重要だと考えられるので報告します。
入院日	退院日	

退院時に情報提供が必要と判断した患者様です。細やかなフォローアップお願い致します。

退院時処方内容からの薬の変更	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	退院時定期内服数	0 剤	現在の内服数	
				※調剤数ではありません	

① 下記4つの質問(MMAS-4)を患者様に対し、お願い致します。

1 薬の飲み忘れがあった	はい・いいえ
2 薬を飲むとき不注目で間違えがあった	はい・いいえ
3 具合の良いときに、薬を休んでしまった	はい・いいえ
4 薬を飲んで具合が悪くなり、服用をやめてしまった	はい・いいえ

② 薬剤管理サマリーからの引き継ぎ事項について評価をお願い致します。

問題なし  問題あり

③ 薬局薬剤師視点より 総合アドヒアランスの評価をお願い致します。

問題なし  問題あり

④ 2、3が「問題あり」の場合、該当理由にチェック及び追加対応を報告欄に記載をお願い致します。

<input type="checkbox"/> 副作用モニタリング	<input type="checkbox"/> 処方変更に伴う薬学的評価	<input type="checkbox"/> 薬剤投与方法	<input type="checkbox"/> フレイル・低栄養
<input type="checkbox"/> 生活環境	<input type="checkbox"/> 飲み忘れ	<input type="checkbox"/> 燃薬ばらつき	<input type="checkbox"/> 自己調剤
<input type="checkbox"/> 身体機能の低下	<input type="checkbox"/> 認知機能の低下	<input type="checkbox"/> 薬への不安	<input type="checkbox"/> ポリファーマシー
<input type="checkbox"/> その他( )			

⑤ 管理者、調剤形態、生活環境に変更がありましたら、お知らせください。

変更なし  変更あり

⑥ 身体所見(可能な範囲で記入お願いします)

体重      kg 血圧      mmHG 脈拍      /分

【報告および提案事項】

入院中のポリファーマシーチーム介入の有無を表記

退院時及び現在の定期内服数に追加して、薬剤変更の有無をチェック

# 進捗：作業No4-2（ポリファーマシー評価表兼報告書）

患者ID	XXX	患者名	XXX	年齢	88歳	性別	女
主治医	A 医師	入院病棟	B 病棟	入院日	2021/6/29	退院日	2021/7/12
入院病名	HCC						
既往	HCC、HBV既感染、胆嚢結石、骨粗鬆症、L1圧迫骨折						
副作用歴	なし	アレルギー歴	アルコール	一般用医薬品・サブシ	なし		
処方機関	当院 (A 医師)	C 医院					
調剤対応薬局	第健調剤薬局						お薬手帳 あり
生活環境	自宅 (複数世代と同居)	薬剤管理方法				家人管理	
患者の薬剤への理解度	やや問題あり	薬剤調整希望の有無				無	
ADL (BarthelIndex)	40	嚥下				とろみ必要	
転倒 (Ⅲ:ハイリスク)	Ⅱ	なし	CONUT				4 (軽度障害)
HDS-R	18	せん妄					無
検査値	推算Crcl値	AST	ALT	尿酸	加钙	ナトリウム	
	24.36	18	9	0.9	4.5	136	
薬剤総合評価	入院時の内服薬剤数 種類						0
入院時に6種類以上の内服薬を服用しており、かつ下記の1つ以上の項目に該当する場合は、薬剤調整の必要性をポリファーマシーカンファレンスにて協議する。	<input type="radio"/> 65歳以上で、高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015「特に慎重な投与を要する薬物のリスト」に該当する薬剤あり <input type="radio"/> 服薬管理能力 (認知機能や身体機能など) の低下あり <input type="radio"/> 同効果薬の重複投与あり <input type="radio"/> 効果・副作用の観点から検討の必要あり <input type="radio"/> 相互作用の観点から検討の必要あり <input type="radio"/> 疾患や肝・腎機能などの観点から検討の必要あり						
調整を提案する薬剤	提案内容	提案理由	変更の有無				
プロチゾラム	定期内服から頓用へ変更	症状改善のため	有り				
ドキサソシン	減量または中止	血圧やや低めで推移しており、転倒のリスクもあ	有り				

- ・患者背景 (病歴など)
- ・処方機関・かかりつけ薬局
- ・生活環境など

- ・ADL: Barthel index (BI)
- ・嚥下機能
- ・転倒リスク
- ・栄養状態
- ・認知機能・せん妄
- ・基準検査値からの逸脱

・処方提案内容や根拠

入院中のポリファーマシーカンファレンスで使用する評価表を報告書として薬剤管理サマリーに添付し、情報提供

	レバミピド錠100mg「オ・効」	2錠	1日2回 昼夕食後		○
○	ウルソデオキシコール酸錠100mg「ト・ウ」	6錠	1日3回 食後		○
○	ヘパアクト配合顆粒 4.5g	3包	1日3回 食後		○
○	プロチゾラムOD錠0.25mg「オ・効」	1錠	1日1回 頓用	○	○
○	ブランドルテープ40mg	1枚	1日1回		
○	チラーヂンS錠25μg	1錠	1日1回 夕食後		○
○	デノタスチュアフル配合錠	2錠	1日1回 食後		○



## 進捗：作業No5,7,8,9,14（周知及び研修会,アンケート調査）

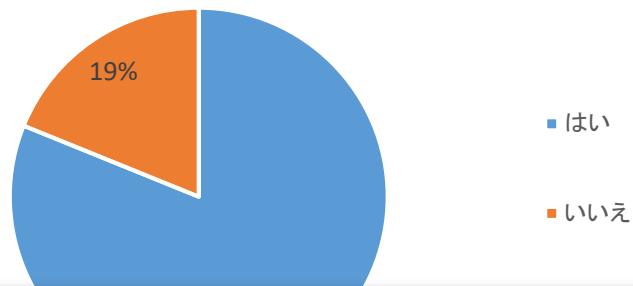
- 令和3年5月27日 三豊総合病院医局会にて医師全体にポリファーマシー対策の周知と同意
- 令和3年6月10日 三豊総合病院リハビリテーション部にてポリファーマシー対策の研修会及びアンケート調査
- 令和3年6月14日 地域医師会を通して開業医全体にポリファーマシー対策の周知と同意及びアンケート調査
- 令和3年6月16日 三豊総合病院栄養管理部にてポリファーマシー対策の研修会及びアンケート調査
- 令和3年8月16日 三豊総合病院NSTにてポリファーマシー対策の研修会及びアンケート調査
- 令和3年8月18日 地域薬剤師会にてポリファーマシー対策の研修会及びアンケート調査
- 令和3年9月16日 西讃地区地域医療連携講演会にてポリファーマシー対策の研修会

# 進捗：作業No5,14-2（地域医師会への周知・対応状況）

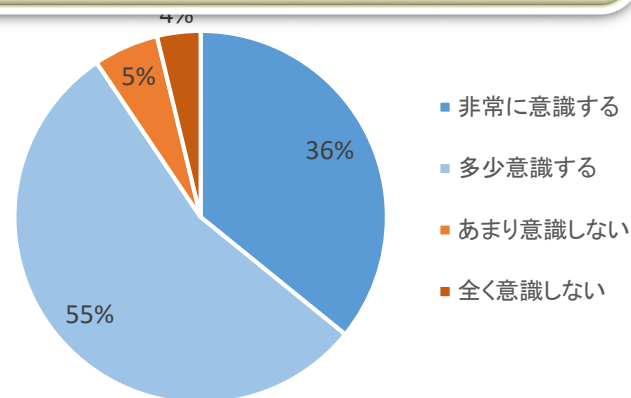
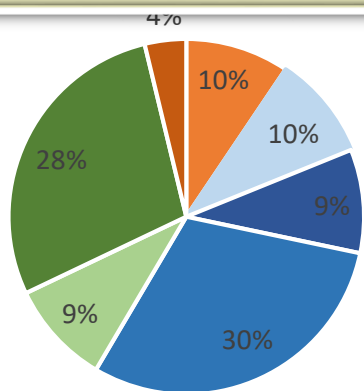
## アンケート調査結果 (対象：三豊観音寺地域の医師)

これまで「ポリファーマシー」という言葉を聞いた事が  
ありましたか？

51施設、53名の医師から回答



**8～9割の医師は多剤服用中の患者を担当されており、  
ポリファーマシーを意識して診療をされている**



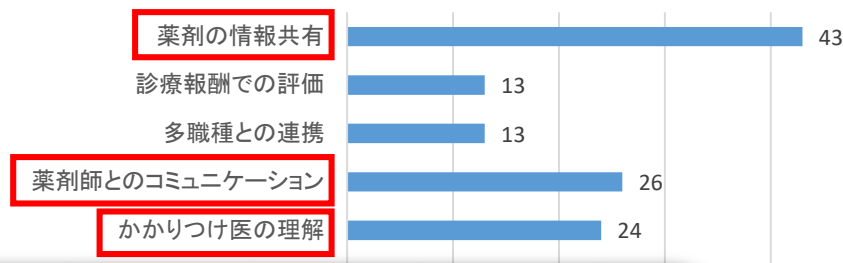
■ ない ■ 1～5名 ■ 6～10名 ■ 11～30名 ■ 31～50名 ■ それ以上 ■ 無回答

# 進捗：作業No5,14-2（地域医師会への周知・対応状況）

51施設、53名の医師から回答

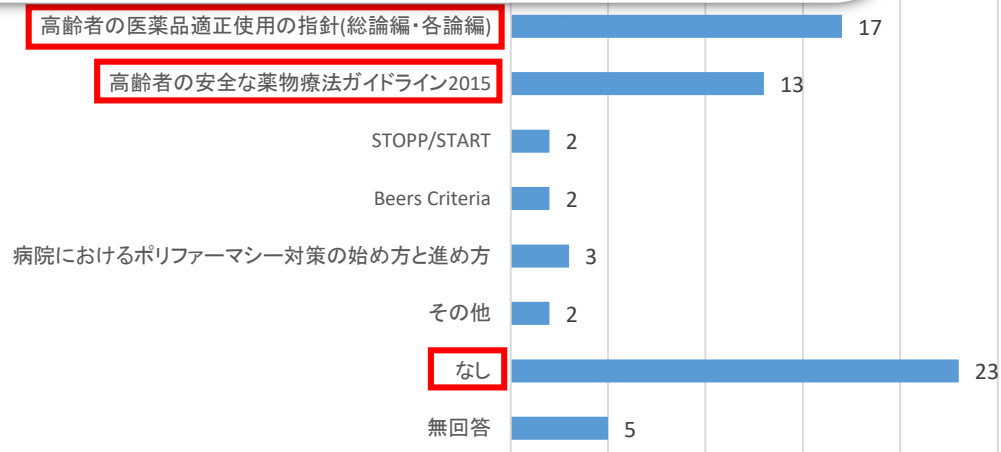
ポリファーマシー対策を拡充していく際に重要だと思う項目を教えてください。(複数解答可)

ポリファーマシー委員会の介入可否について



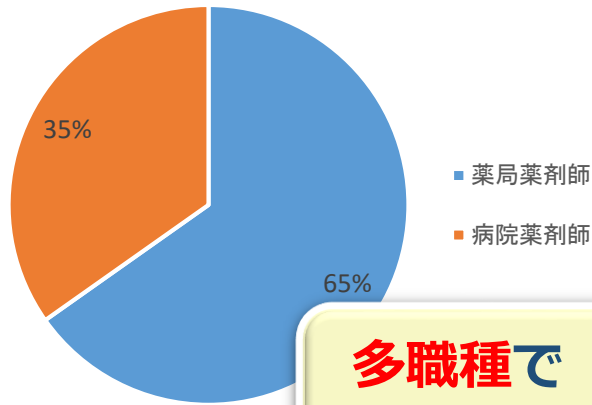
- ・ 回答頂けた**全ての医師**から入院中のポリファーマシー対策について承認が得られた
- ・ 退院後の薬剤に関する**情報提供、コミュニケーション**が重要
- ・ 43%の医師が指針等についての認識されていない

- 入院中のポリファーマシー対策及び退院後の継続対応希望
- 入院中のポリファーマシー対策は必要に応じて可
- 入院中のポリファーマシー対策は不要
- 無回答

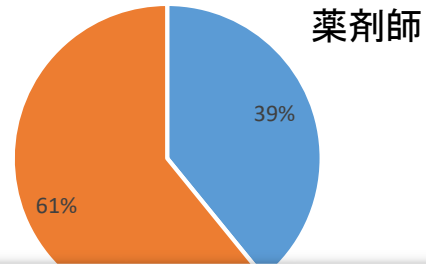


# 進捗：作業No7,8,9,14-1（薬剤師及び多職種等への周知・対応状況）

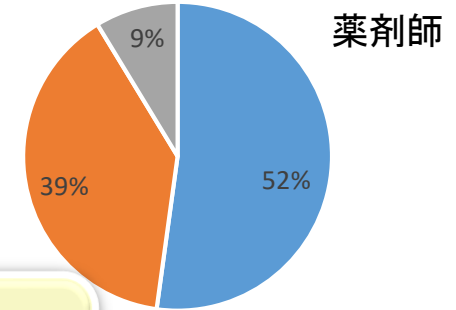
アンケート回答数：薬剤師 (n=23)



これまで日常業務の中で「ポリファーマシー」を意識したことはありますか？

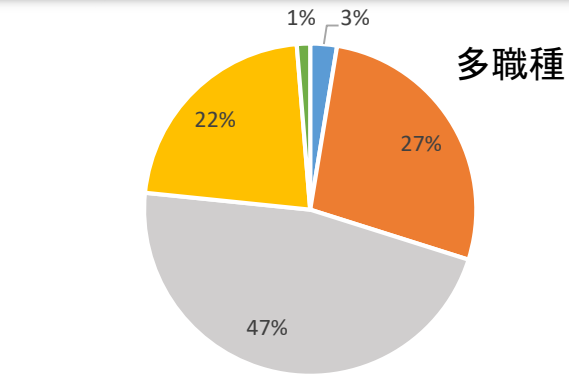
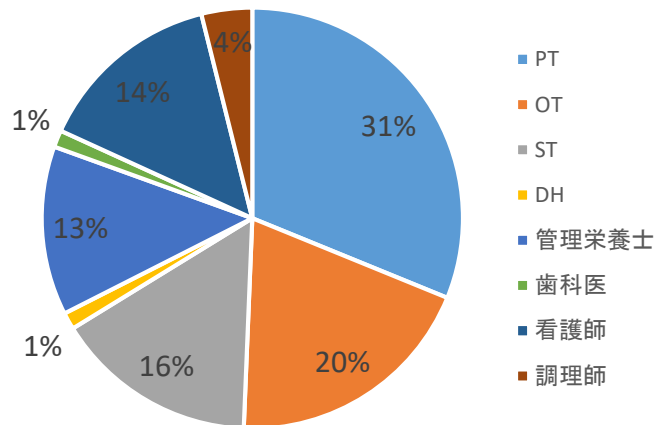


これまでの日常業務の中で薬による副作用を疑った経験はありますか？

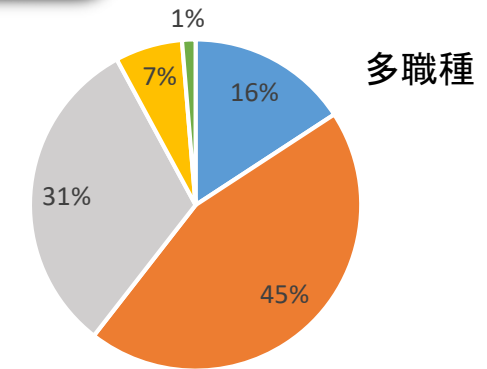


**多職種で「ポリファーマシー」を意識した経験は30%、  
薬剤の副作用を疑った経験は61%**

アンケート回答数



まあまあある ■ あまりない

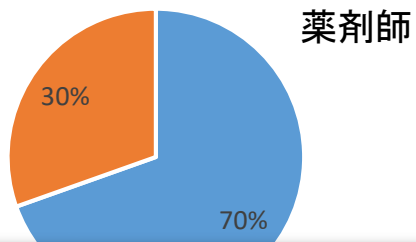


■ ある ■ まあまあある ■ あまりない ■ ない ■ 無回答

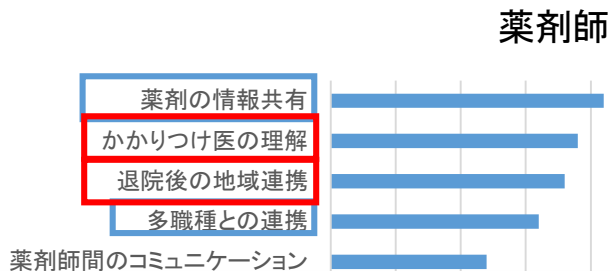
■ ある ■ まあまあある ■ あまりない ■ ない ■ 無回答

# 進捗：作業No7,8,9,14-1（薬剤師及び多職種等への周知・対応状況）

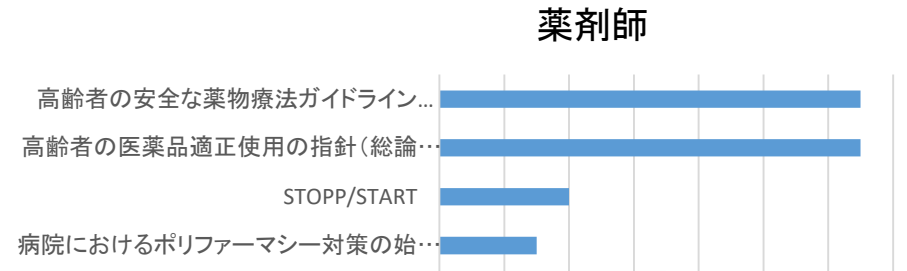
今後、日常業務を行う中で「ポリファーマシー」を意識した業務を行いたいと思われ  
ますか？



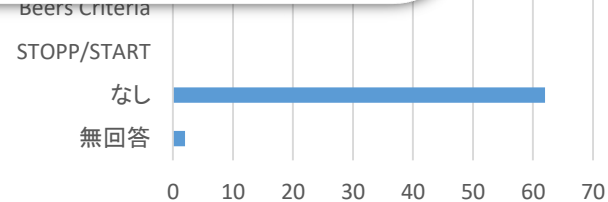
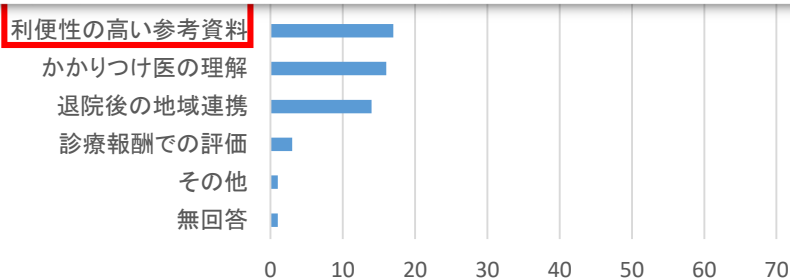
ポリファーマシー対策を拡充していく際  
に重要だと思う項目を教えてください。  
(複数回答可)



ポリファーマシーに関する指針やガイドラ  
イン等で知っていたものをお選びください。  
(複数回答可)



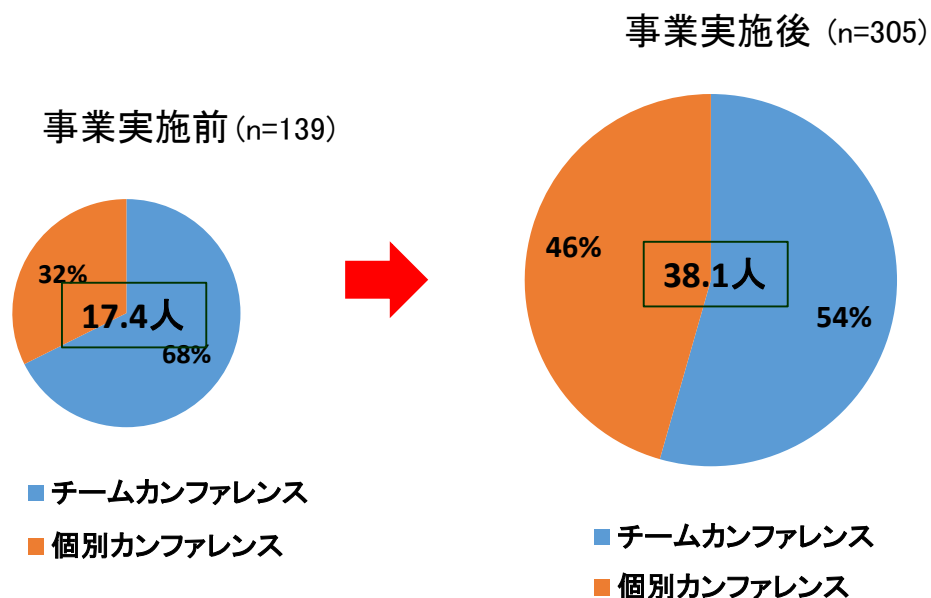
・ **多職種**で「ポリファーマシー」を意識した業務を行いたい割合は**95%**  
 ・ 薬剤の情報共有や多職種連携は共通の重要項目、薬剤師は**医師の理解**、**退院後の地  
域連携**、多職種は**薬剤師とのコミュニケーション**や研修会・参考資料を重要視 **多職種**  
 ・ 指針やガイドラインでは「**高齢者の安全な薬物療法ガイドライン**」「**高齢者の医薬  
品適正使用の指針（総論編・各論編）**」以外の認知度は低い



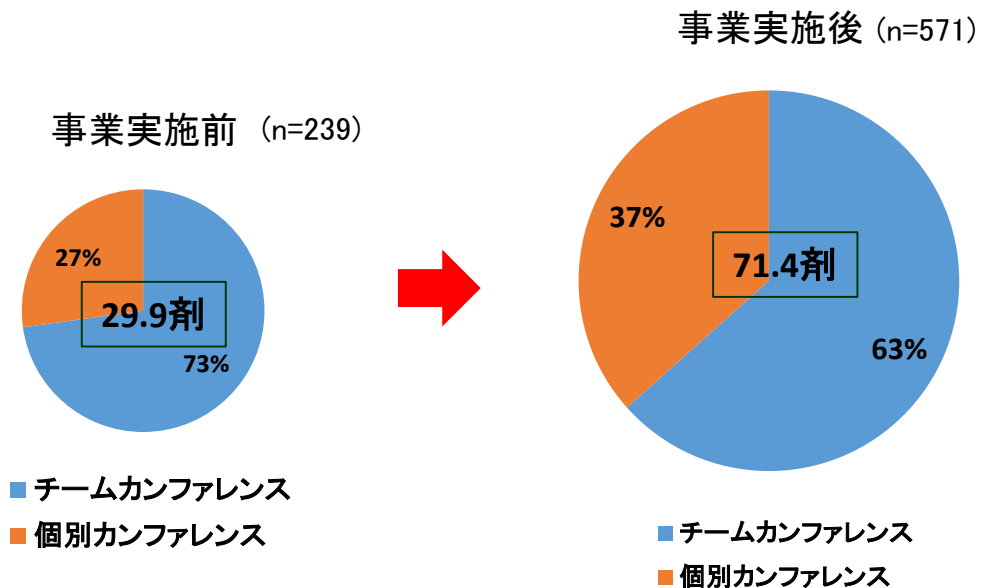
■ 思う ■ まあまあ思う ■ あまり思わない ■ 思わない ■ 無回答

# 進捗：作業No6,10,11,12(事業実施後のカンファレンス状況)

## 処方提案患者数(人/月)



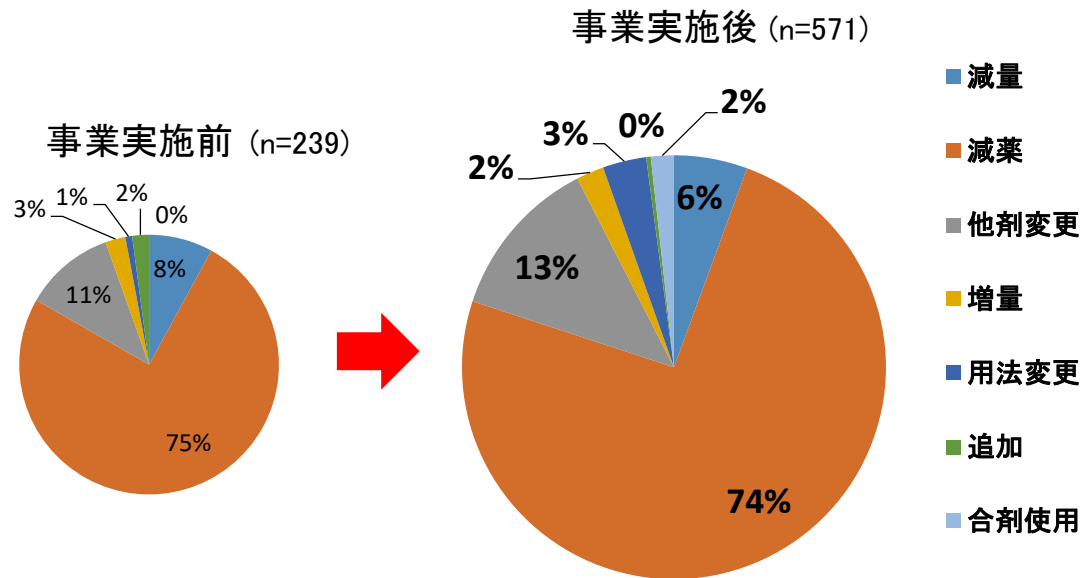
## 処方提案薬剤数(剤/月)



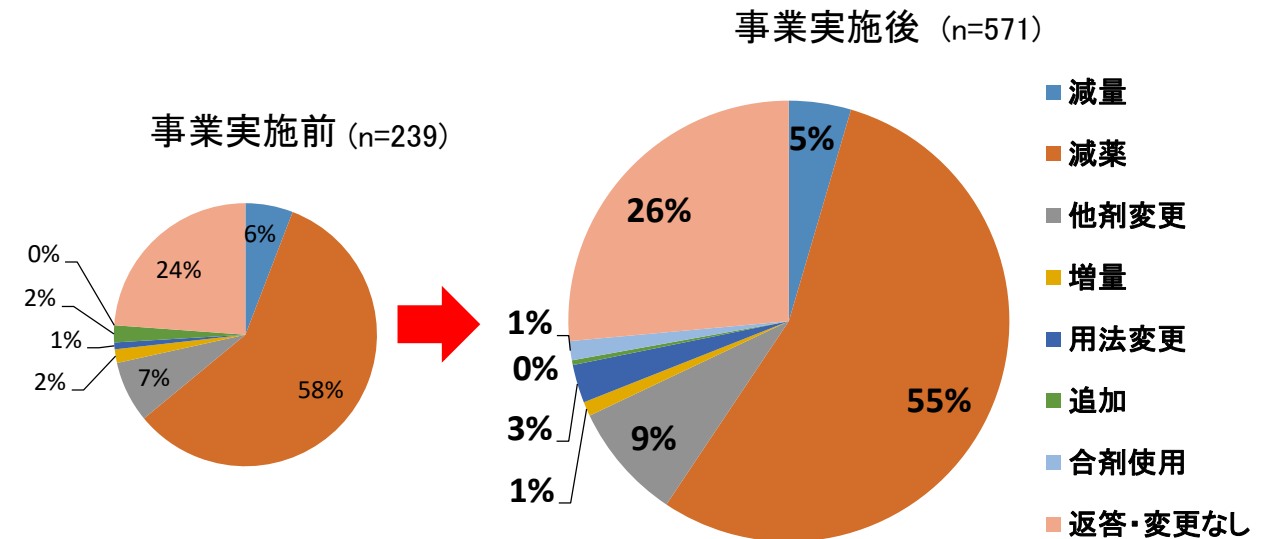
**介入患者数及び処方提案薬剤数は倍増**  
**病棟（個別）カンファレンスの件数も大幅に増加**

# 進捗：作業No6,10,11,12(事業実施後の処方提案状況)

薬剤毎の処方提案内容



薬剤毎の処方提案(結果)内容

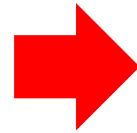
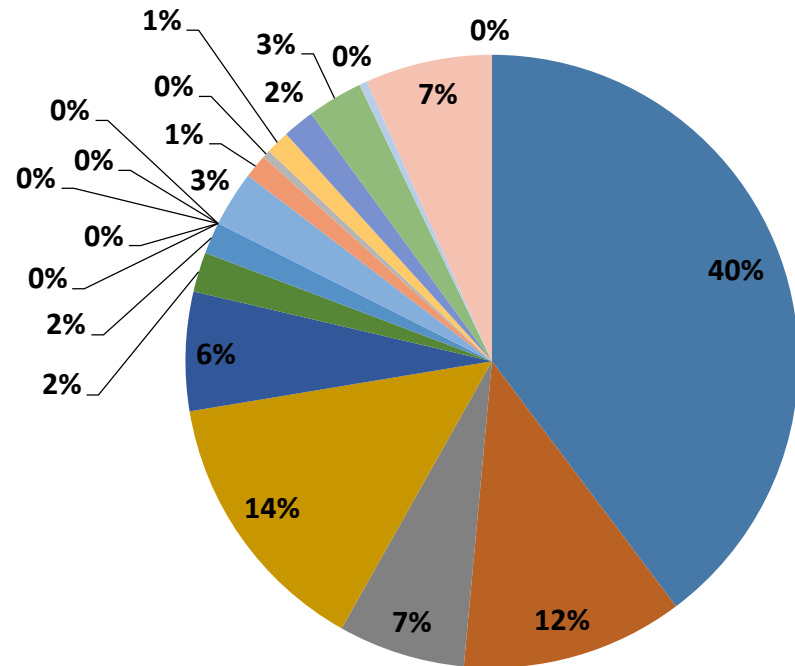


処方提案内容は**減薬**に関する事項が多数（採択・変更率は74%）  
提案内容の割合は事業前後に大きな変化なし

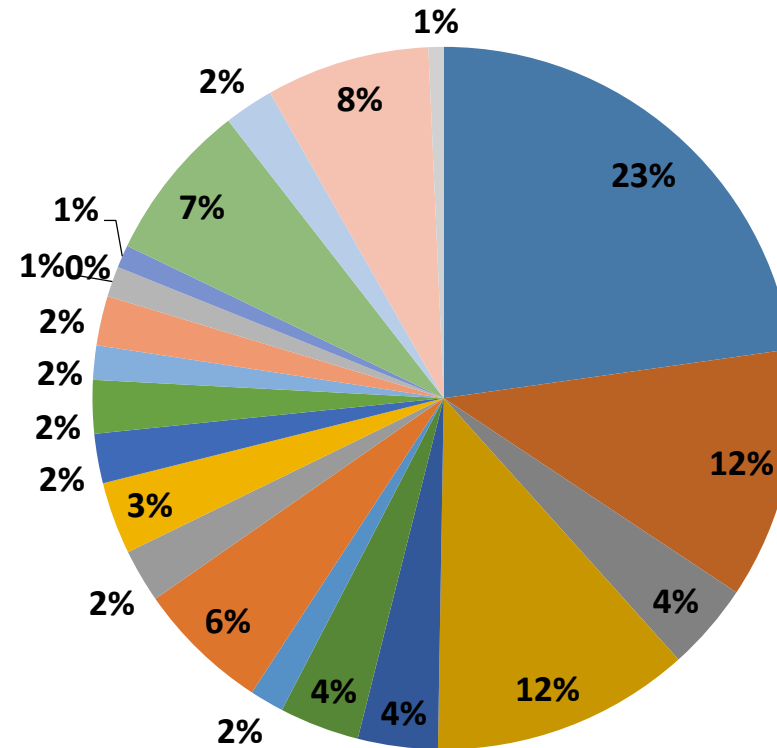
# 進捗：作業No6,10,11,12(事業実施後の処方提案状況)

## 処方提案の契機

事業実施前



事業実施後



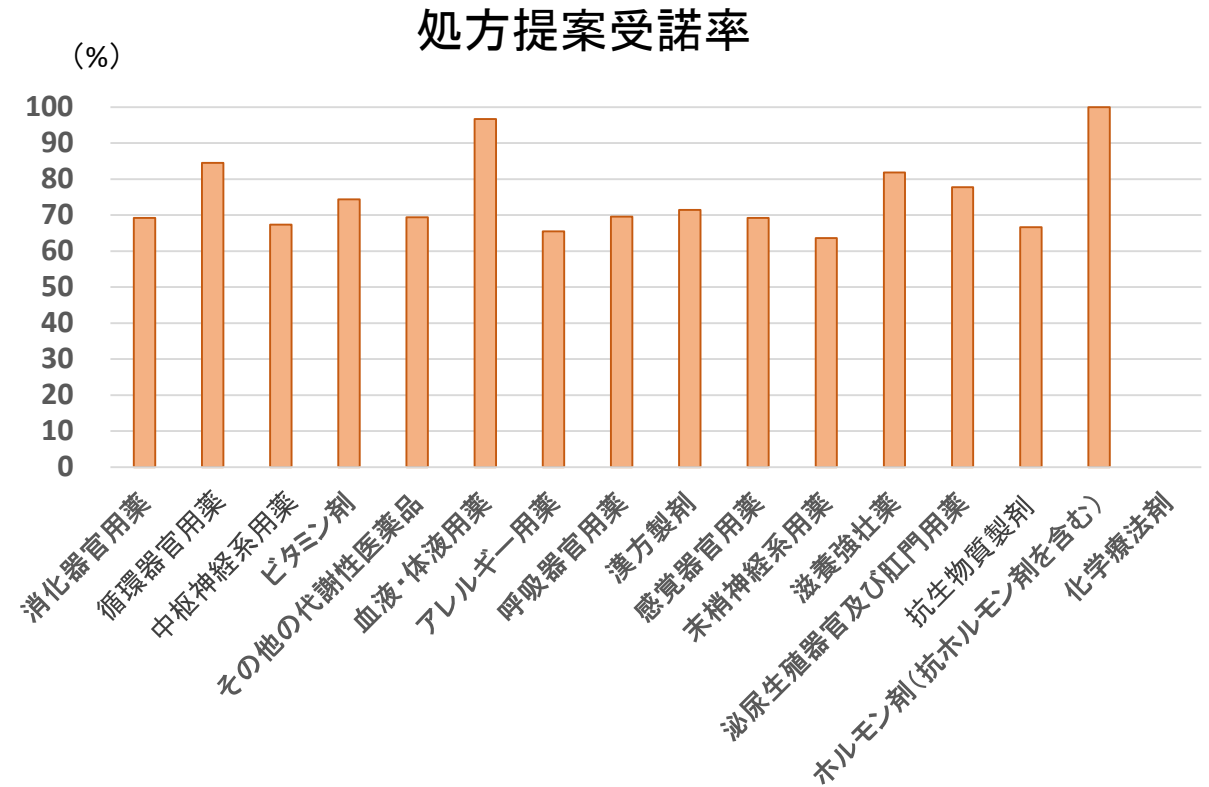
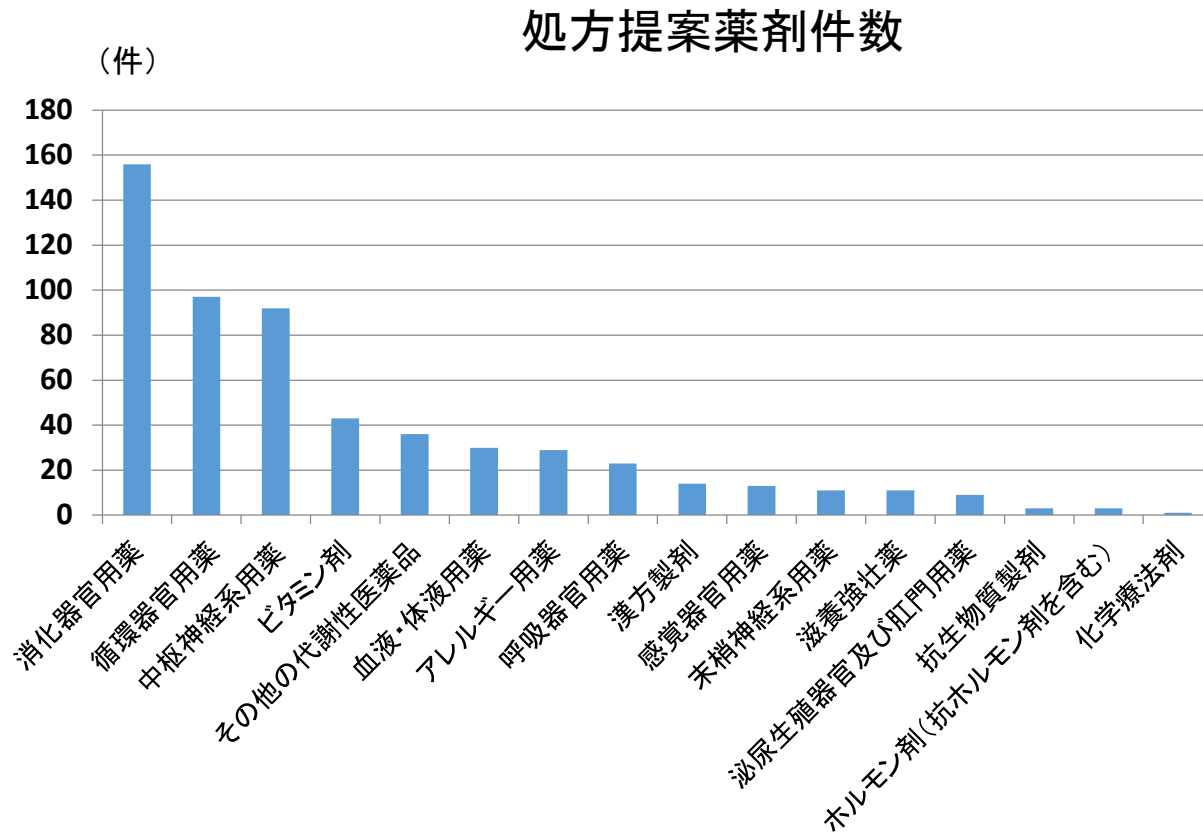
- 症状改善
- 副作用出現・懸念のため
- 効果不良
- 検査値異常
- 検査値改善
- バイタル参考
- 年齢・体重
- ADL低下
- 嚥下機能低下
- 栄養状態(食事摂取量)を考慮
- 転倒リスクを考慮
- 認知機能・せん妄リスクを考慮
- ガイドライン(PIMs)参考
- 病態を考慮
- 添付文書逸脱
- 相互作用のため
- 禁忌項目に該当のため
- 同効薬重複
- 処方意図不明
- アドヒアランス向上のため
- 患者希望

事業実施前の提案の契機は**偏りが大きく**、影響している事項の把握が難しかった。  
 事業開始後はポリファーマシー対策に至った**契機が分かり易くなった**。



# 進捗：作業No6,10,11,12(事業実施後の処方提案状況)

## 事業実施後の処方提案を行った薬剤(薬効分類別)



処方提案を行った薬剤の上位品目は**消化器官用薬、循環器官用薬、中枢神経系用薬**であった。  
 処方提案受諾率では**ホルモン剤、血液・体液用薬、循環器官用薬**で高い傾向が見られた。

## 進捗：作業No15,16

### (事業実施後の薬剤管理サマリー、介入状況報告書件数、退院後の状況)

	事業実施前	事業実施後
薬剤管理サマリー発行件数	74件(薬局33件)	197件(薬局77件)
薬局からの介入状況報告書 受領件数及び返信率	16/33件 (返信率48.5%)	62/77件 (返信率80.5%)
* 退院後のポリファーマシー対策 継続件数及び継続率	10/16件 (継続率62.5%)	57/62件 (継続率91.6%)

**病院からのサマリー発行件数、薬局からの報告件数は大幅に増加  
退院後のポリファーマシー対策継続率も大幅に増加**

\* 入院中に実施されたポリファーマシー対策が、退院後かかりつけ医を受診した後にも継続されている件数及び率

## 進捗：作業No18（普及啓発活動予定）

令和3年5月 第5回日本老年薬学会

シンポジウム2:ポリファーマシー 地域連携での取り組み  
「ポリファーマシーと地域連携 地域での実践手法について」

令和3年5月 第5回日本老年薬学会

一般演題:「ポリファーマシーチーム活動が退院時処方に及ぼす影響調査」

令和3年10月 第31回日本医療薬学会年会

シンポジウム:高齢者のポリファーマシー対策指針～明日からの始め方と  
進め方～ 「地域拠点病院が担う役割と進め方」

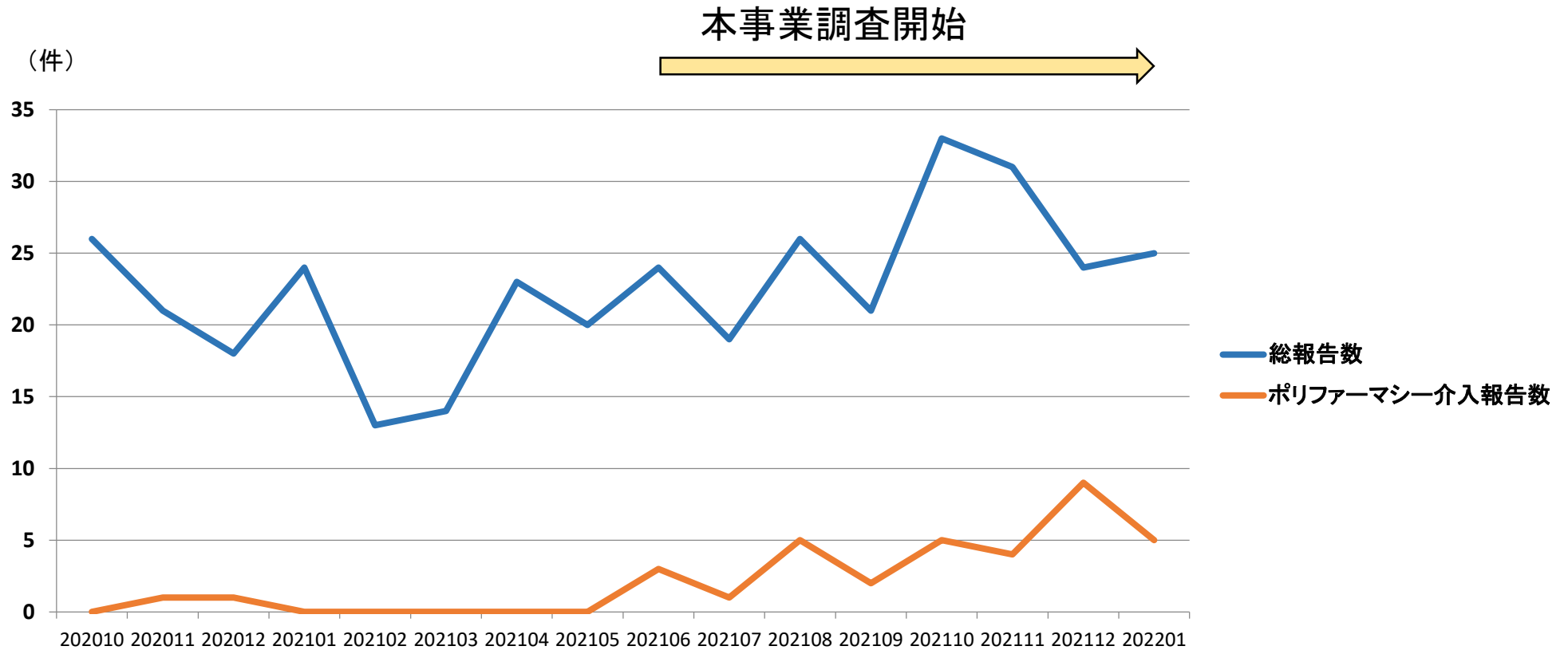
令和3年10月 第31回日本医療薬学会年会

一般演題:「特定薬剤・検査値スクリーニングシステムを用いたポリファーマシーチームによる薬剤適正に関する取り組み」

令和4年3月 日本薬学会第142回年会

一般演題:「厚生労働省による「高齢者医薬品適正使用推進事業」を通じた  
ポリファーマシー対策の効果」

# 進捗：作業No19（プレアボイド報告件数）



総報告件数：19.9件/月（事業実施前）⇒**25.4件/月（事業実施後）**  
ポリファーマシー介入報告件数：0.25件/月（事業実施前）⇒**4.25件/月（事業実施後）**

# 現時点での業務手順書の有効性と課題について

## 有効性について

- ・施設ごとの異なるニーズに対応できる様式である（細かい項目設定）
- ・当初、当施設は「進め方」の部分を中心に実運用調査予定であったが、「始め方」の部分でも参考になる部分が多く、全体を通して自施設での取り組みを見直すために有用である。

## 課題について

- ・項目ごとの解説内容・量にばらつきがある。  
⇒本調査を通じて得られた結果などを参考にばらつきの均てん化が必要ではないか。
- ・入院患者への対応部分に関する追記について  
⇒ポリファーマシーカンファレンスによる処方見直しと病棟での処方見直しの部分をより区別化し、それぞれの対応方法を示してはどうか。
- ・地域の医師会に対するアプローチのみでは開業医各々のポリファーマシー対策に対する意識の差が把握しづらい。  
⇒本調査では当地域の開業医全てを対象にアンケート調査及びポリファーマシー対策への同意取得を実施することで円滑な運用が可能となった。こういった個別対応のメリットについても示しても良いのではないか。